

One PURPOSE

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY



190

2017 April

特集

「SIED」ってなに？

留学生課学生スタッフ
「SIED」の活躍

同志社人訪問

祇園 一力亭 女将

杉浦 京子さんに聞く

COVER INTERVIEW
My Purpose 挑戦する人



2 特集 「SIED」ってなに？ 留学生課学生スタッフ「SIED」の活躍

3 「SIED」ってなに？

5 留学生課 学生スタッフの活躍 座談会



9 Seminar ～ゼミ探訪 学びの時間～ グローバル地域文化学部 渡辺 文ゼミ



11 同志社の研究は今 宇宙医科学研究センター センター長 大平 充宣 (スポーツ健康科学部・研究科特別客員教授)

13 CAMPUS NEWS

ホームカミングデー2016・同志社創立141周年記念リユニオンを終えて／フィリップス・アカデミーとの協定締結／2016年度秋学期外国語honors認定書授与式／国立長寿医療研究センターと教育・研究に関する協定締結／南アフリカ共和国大統領顧問が本学に来訪／2016年度プロジェクト科目秋学期成果報告会／同志社グリークラブが熊本支援コンサートを実施／Twitter公式アカウント始動！／特定寄付奨学金募金協力者ご芳名／同志社大学VISION2025特設ホームページ公開／本学教員の執筆図書紹介／新任教員紹介／退職教員／第18代同志社総長の決定について

19 留学生紹介

マチャコヴァ・ヤナ さん
(日本語・日本文化教育センター)



20 INTERVIEW ～同志社人訪問～

祇園 一力亭 女将
杉浦 京子さんに聞く



23 My Job, My Life ～私と「仕事」～

中野 伶香さん (2015年 グローバル・コミュニケーション学部卒業)
中本 和秀さん (2007年 商学部卒業)

25 ANNOUNCEMENT

27 COVER INTERVIEW My Purpose ～挑戦する人～

沖田 理奈さん (スポーツ健康科学部 2年次生)



ご意見・情報を募集

「One Purpose」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。どうぞお気軽にご意見・情報を広報課までお寄せください。

※今号に登場する学生の年次などは取材時のものです

Student Staff for
Intercultural
Events at
Doshisha

Feature article

What's SIED?



シード

特集

「SIED」ってなに？

留学生課学生スタッフ「SIED」の活躍



SIEDは国際センター留学生課に設置された組織です。

両校地の国際交流ラウンジを拠点に

多数の学生スタッフが主体となって多彩な国際交流イベントを
継続的に企画・運営し、際立つ成果を上げています。

特集

Feature article

What's SIED?

「SIED」ってなに?



留学生数の増加で高まる 国際交流のニーズに対応するために、 学生視点で主体的に 国際交流イベントを展開する SIED を発足

文部科学省では日本の大学の国際化を図るために G30(Global 30)、GGJ(Go Global Japan)などの事業を推進しています。G30は海外の学生に向けて留学しやすい環境の提供を目指す国際化拠点整備事業であり、GGJは日本のグローバル人材育成を強化するための教育体制整備を支援する事業です。本学はこれらに続けて採択され、留学生数が増加し、キャンパスにおける国際交流のニーズも高まり、日本人学生のグローバル化が急務となっています。このような背景の中で、学生が主体となり、その視点を生かした国際交流イベントを積極的に展開するために、国際センター留学生課に SIED が設置されました。2013年10月から学生スタッフによる活動を開始し、国籍を超えた相互理解を促進し、本学のグローバル化に貢献しています。また、参画する学生スタッフ自身も多彩なイベントの企画・運営を通じてリーダーシップやコミュニケーションスキルなどを磨き、大きく成長しています。



今出川校地スタッフ



京田辺校地スタッフ

国際センター
Facebookページ

<https://www.facebook.com/DoshishaU.IC>



今すぐ国際センターの公式SNSや留学生課オリジナルサイトをチェック!
きっと参加してみたいイベントが見つかります!!

SIED
Twitter

https://twitter.com/Doshisha_SIED



今出川・京田辺校地の国際交流ラウンジを拠点とする SIED スタッフは両校地合わせて約 50 人。それぞれの視点から数多くの国際交流イベントを精力的に企画・運営し、キャンパスのグローバル化を推進しています。留学生と交流したいけれどきっかけがつかめない、世界の文化に触れてみたい、日本の文化を改めて体験したいなど、様々なニーズに SIED がお応えします。興味のある方は、今すぐ国際センターの Facebook や SIED の Twitter、留学生課オリジナルサイト (http://ois.doshisha.ac.jp/international_exchange/sied.html) で、最新情報や過去のイベントレポートをご覧ください。あなたの参加を心からお待ちしております。



SIED が実施したこれまでのイベント紹介



Lunchtime Event



ランチタイム企画

開講期間中のお昼休みに今出川・京田辺両キャンパスの国際交流ラウンジで「Lunch Talk」「Speak Up!」を開催しました。留学生と日本人学生が多言語による会話を楽しみながら異文化交流・理解を深めるイベントです。授業の合間にランチを食べながら気軽に国際交流ができるとあって、多くの学生が参加しています。



Mix Up Camp



国際交流合宿「Mix Up Camp」

国際交流について考える1泊2日の合宿プログラムです。2016年度は、2月11日(土)・12日(日)に同志社びわこリトリートセンターにて開催し、留学生8人を含む本学学生22人が参加しました。「ボーダーを超えた交流」を目標に、様々なアクティビティに取り組み、参加者同士の交流を深めました。



Intercultural Understanding



異文化に触れる

アジア各国の歴史や文化に目を向ける「Touch Asia」シリーズ。これまでマレーシア、インドネシア、ベトナム、インドなどをテーマにその国の伝統工芸品や郷土料理を作るなどしています。「異文化 Trip」では留学生が母国の歴史や文化をプレゼンし、異文化への理解を促進しています。



Japanese Culture



和文化に触れる

聞香体験や京友禅体験、浴衣散策、座禅、日本舞踊体験、年賀状作りなど、日本の文化や歴史に触れるイベントを数多く開催しています。留学生にとっては日本の文化に初めて触れ学ぶ機会に、日本人学生にとっても改めて母国のことを知るよい機会になっています。



World Kitchen



World Kitchen

世界各国で作られる伝統的な料理を実際に参加者が作り食べることで、その国の文化を知るといった企画です。これまでにアメリカで感謝祭の日によく振る舞われる「スイートポテトマッシュマロ」や中国の「かぼちゃ餅」作り、日本の伝統的な「もちつき」体験などを通して異文化理解に取り組みました。



Global Career



グローバルキャリア形成

キャリア形成のヒントとして、社会人とのディスカッションやグローバルに活躍する方を講師に招いた講演会などを開催。2016年度はチョコレートショップ Dari K の吉野慶一社長に学生時代や創立当時の経験についてご講演いただきました。また、ヤンマー株式会社本社にて、ムスリムの社員の方にご講演いただくとともに、グローバル企業ならではのこだわりの社食を見学させていただきました。

講演中の Dari K 吉野慶一社長



ヤンマー株式会社本社にて

特集

Feature article

What's SIED?

「SIED」ってなに?

留学生課 学生スタッフの活躍 座談会

福田 知可さん
【商学部2年次生】

秋山 みなもさん
【文学部美術学科1年次生】



座談会に参加した
学生スタッフの活動紹介



加藤 聖人さん
【グローバル・
コミュニケーション学部
4年次生】



SIED が同志社クローバー祭に初参加したイベント「世界のお茶博物館」で主担当を初経験。企画では参加者のニーズを最重視。新発想を得るには外国籍スタッフの増強も必要と考えている。



福田 知可さん
【商学部2年次生】



講演会「カカオを通して世界を変える〜チョコレートショップ Dari K の挑戦〜」でSIED初の100人の集客を実現。企画の質を高め、長く心に残るイベントの開催を目指している。

国籍を超えて理解を深める多彩なイベントを発信 SIED は出会いと成長の場です

感動を与える交流企画で
心を結ぶ懸け橋になりたい

鄭 国際センター留学生課のSIEDでは参画する学生スタッフが主体となって多彩な国際交流イベントを企画・実施しています。2016年度はイベント実施件数158件、参加人数は延べ2,840人で、初年度から順調に実績を伸ばしています。本特集では、この活動を積極的に推進している学生の座談会を通じて、SIEDをより広くアピールできればと願っています。まず、参加した動機、その後の実感などを聞かせてください。

福田 兵庫県立芦屋国際中等教育学校に通っていたこともあり、留学や国際交流には関心を持っていました。大学入学時、SIEDの「Lunch Talk」に参加したことがきっかけで迷わず応募しました。1年次生の6月から活動を開始して1年半ほどになります。この組織ではイベントごとに主担当が決まっており、企画規模に応じて事前準備や当日運営を行うスタッフをSIED内で募ります。当初は何が何だかわから

ず、とにかく先輩の背中を追い、少しでも早く仕事を覚えようと必死でした。そのような中でも、学部や年次を超えてスタッフと対話する機会に恵まれ、数多くの留学生と交流できることに大きな喜びを感じています。

秋山 大学生活に胸を高鳴らせて入学し、部活動やサークルなど、やってみたくが多過ぎて困惑していました。特にSIEDに興味を抱いたのは、留学生との出会いが期待でき、イベントの企画運営にも関心があったからです。参加したのは今年の4月です。結果は大正解でした。イベントの主担当を任されるようになってからは、企画や準備の大変さを実感しています。

加藤 2014年、ニュージーランドへ留学した時に、大学主催の多彩な国際交流イベントに参加する機会があり、数多くの外国籍の友人を得ることができました。この経験から帰国後は本学を拠点に国際交流の機会を積極的に提供したいと思うようになり、2015年5月に参加しました。留学生課の指導は予想以上に厳しく、担当したミーティングの議事録も朱筆のチェックが数



鄭躍軍 国際センター所長
〔文化情報学部教授〕

中村百花さん
〔文化情報学部2年次生〕

加藤聖人さん
グローバルコミュニケーション学部4年次生

多く入っていました。当初は戸惑いましたが、その丁寧な指導によって企画を練り上げる思考力も高まり、創造的な企画・活動が行えるようになりました。SIEDは「成長の場」と実感しています。

中村 私は幼少期から17年間にわたって日本舞踊の一つである扇舞のお稽古を重ねてきました。華道や茶道といった他の日本の伝統文化にも親しんできましたが、特に思い入れが強いのが扇舞です。その世界に触れることによってより多くの人に和の伝統文化に関心を深めてもらいたいと思い、SIEDに参加しました。また、高校時代に2度の短期留学を経験し、現地の人々には親しく迎え入れてもらいました。その恩返しの意味も込めて、今度は私が誰かの支えになればという思いもあります。活動を始めたのは昨年4月です。最近は後輩もでき、先輩としての自覚も芽生えてきました。

日々の真摯な取り組みが 自身の成長にも役立つ

鄭 企画した主なイベント、特に印象深い企画などを教えてください。

加藤 「世界のお茶博物館(同志社クローバー祭)」(2015)、「世界遺産を学

ぼう～魅惑の東南アジア編～」(2015)、「ココ・コーラ工場見学」(2016)、「テイラーズ大学×SIED」(2016)、「アトリエSIED～世界の雑貨を作ろう～」(2016)、「World Kitchen～古民家でおもちつき～」(2016)などのイベントに企画しました。最も印象深いのは同志社クローバー祭にSIEDが初参加した時の企画であり、初めてを担当を任された「世界のお茶博物館」です。留学生にも協力してもらい、世界のお茶の試飲を通じて各国の文化を味わってもらうというのが企画の主旨でした。夏休み前から準備に着手したのですが、SIEDに参加してまだ2カ月の頃で、4年次生の先輩が抜けた時期と重なり、具体的にどのように企画を具現化すれば良いかわからず、こう着状態に陥ってしまいました。でも、留学生課の方々や他のSIEDスタッフに支えられて何とか当日を迎えることができ、イベントは大成功でした。苦労した分、得たものは多く、自身の成長を実感しました。

中村 「Speak Up!～バックネル大学×同志社」(2016)、「テイラーズ大学×SIED」(2016)、「京都散策～嵐山～」(2016)、「日本舞踊入門」(2016)などのイベントに携わりました。やはり、

印象が鮮烈なのは、主担当とプレゼンターの双方を担当した「日本舞踊入門」です。二役をこなすのは大変で、日本舞踊は専門用語も多く、英語の原稿作成にも苦勞しましたが、それまでの経験を踏まえて準備を進め、開催にこぎ着けることができました。当日は誰もが目を輝かせて扇舞を鑑賞し、前のめりになって写真を撮っていました。簡単な振りを練習した後は皆で披露しました。「日本の文化に関心を抱いてほしい」という私の熱い思いが実現した瞬間であり、うれしさが込み上げてきました。

福田 これまで「Touch Asia」シリーズ(2015～2016)、「Rakugo in English～笑いで世界を一つに～」(2015)、「京友禅を体験してみよう！」(2016)、講演会「カカオを通して世界を変える～チョコレートショップ Dari Kの挑戦～」(2016)などのイベントを実施してきました。準備に最長の時間を注ぎ、最高の達成感を得られたのがDari K吉野社長をお招きした講演会です。SIEDとして初めて100人の集客を記録した企画です。当時はまだ1年次生で、講演依頼の経験も皆無でした。当初、ホームページを通じて依頼したのですが、先方からの連絡はなく、意を決して直接お店に伺いました。運良く講演は引き受けていただいたのですが、それからが大変。講演料の相談をはじめ全て暗中模索の状態から企画を詰め、約4カ月後に開催することができました。「初めて同志社に来て良かったと思った」という参加者からの言葉も心に深く響きました。人の思い出に残るイベントに携われたことの幸せを実感し、講演内容も私の価値観を広げるのに役立ちました。実は、先の「落語企画」では、集客目標の半数前後しか動員できず、「優れた企画なのだから、もっと集客の努力をしてほしかった」という参加者の声もあり、一時は「講演会恐怖症」に陥りました(笑)。その教訓に基づき、本企画では広告の表現や広報の仕方などを徹底的に見直し、満を持して臨みました。それだけに、集客で新記録を達成できた感慨もひとしおでした。

What's SIED?

シード
「SIED」ってなに?



座談会に参加した 学生スタッフの活動紹介



中村 百花さん
【文化情報学部2年次生】



幼少の頃から打ち込んできた扇舞をテーマに「日本舞踊入門」を開催し、大好評を博す。SIEDのスタッフは個性的で快活なので会話も弾むとか。今後はもっと両校地の交流を深めたいと願っている。



秋山 みなもさん
【文学部美学芸術学科
1年次生】



「風呂敷の包み方講座」で担当を初経験。「Noh? Nippon? 能から日本を考える」でも、担当を務めて大成功を収める。現在、男性メンバーが少ないので、積極的な応募を期待。



秋山 私は「大学プレゼンテーション」(2016)、「風呂敷の包み方講座」(2016)、「Noh? Nippon? 能から日本を考える」(2016)などに参画しています。それぞれに思い入れがあります。「大学プレゼンテーション」は、初めて参加した企画であり、国際交流の橋渡しをしている実感を得ることができました。担当を初めて経験したのが「風呂敷の包み方講座」です。学外でのイベントだったので、外部との交渉も含めて事前の準備の大変さに圧倒されましたが、先輩方にご指導いただきながら長い道りを経て開催することができ、担当の役割を具体的に知る契機にもなりました。「Noh? Nippon? 能から日本を考える」でも、担当を務めました。これまで経験した中で最も大規模なイベントです。社会人の方々の参加も得て、留学生や日本人学生の視点も交えながら討議し、交流を深めました。この時も数多くの先輩にサポートしていただき、終了時には感謝と達成感で一杯でした。

SIEDの「出会いの輪」は どこまでも広がっていく

鄭 SIEDの活動を通じて得た気づきや学びを聞かせてください。

中村 イベント当日に関しては来場者に目を配り、「洞察力」が非常に重要であることを学びました。例えば、困っているような仕草や表情を察知したら、瞬時に声をかけるなどの対応を取ることができるようになりました。これからも広い視野を持って取り組み、満足度を高めるように努めたいと思っています。また、準備では速やかに行動することの大切さを実感しています。

福田 「落語企画」と Dari K 社長の講演会の事例でも述べましたが、失敗を失敗で終わらせるか、その原因を分析して次に生かせるかは、自分次第であ

るということを学びました。失敗をチャンスと捉え、恐れずに挑戦しようと思うようになりました。

秋山 SIEDの活動に参画していなければ、本学の留学生と交流する機会は、これほどはなかったと思います。それは素晴らしい経験です。国際交流と聞くと、ハードルが高いといった印象もありますが、留学生と出会って友人になることも国際交流だとすれば、意外と簡単なことだと感じています。

加藤 後輩を指導し、育成することがチームや自身の成長に直結するというのに気づきました。後輩が先輩と比べて未熟なのは当然です。自分で仕事を片付けてしまう方が早いことも多々あります。しかし、それでは後輩が育たない。時間をかけて教えることが主戦力となるメンバーの増強につながり、SIEDのレベルアップにも役立ち、自身の力を高めることにもなるのです。

鄭 SIEDの国際交流への貢献についてはどのように感じていますか。

秋山 イベントに参加した学生の多くが留学生と活発に交流しています。私も何度か一般参加をしていますが、その度に留学生の友人ができました。例えば、すでに帰国したロシアの学生とは、今でも頻りに連絡を取り合っています。最近、出会ったのは南アフリカ共和国とモザンビーク共和国から来た留学生です。SIEDは「国境を超えた出会いの場」として大きく貢献しています。

加藤 京田辺校地は理系の学生が多く、文系に比べて国際交流の機会が少ないように感じていたのですが、多彩なイベントを通じて「もっと留学生と出会いたい。自分も留学したい」といった声を数多く聞くようになってきました。SIEDの活動が大きく実を結びつつあると感じています。

中村 昨年の同志社クローバー祭で実施した「アトリエSIED～世界の雑貨を作ろう～」に、私もスタッフとして参加したのですが、小さい女の子に「お姉ちゃん、ありがとう!(留学生とお話してきたよ)」と感謝されました。この時、地域の人々と留学生の交流も非常に大切だと実感し、そのような場

を提供できたことがすごくうれしかったです。SIEDの役割は「つなぐこと」だと考えており、幅広い貢献ができていていると思っています。



福田 例えば、SIEDのイベントで親しくなった韓国の留学生に現地で再会し、旧交を温めました。そのつながりで仲良くなった人とは日本で会食しました。SIEDで得た「出会いの輪」は次々に広がっています。

参加する人々の視点に立って そのニーズを的確に捉える

鄭 現状での課題や今後の目標などを聞かせてください。

加藤 満足度の高い企画を立案するためには、参加する側のニーズを的確に捉えることが重要です。全てにおいて「参加者目線」を最重視したいと考えています。また、組織の拡大によって意思疎通に課題が生じているように感じます。これは直ちに解消できる問題

ではありませんが、卒業まで解決策を模索し続けたいと思っています。

秋山 幼少の頃からバレエを続け、芸術を深く学ぶために、美学芸術学科を選択しました。SIEDの活動では専門領域を超えた世界に飛び出して見聞を広め、日本についての見識も養い、多彩な企画を生み出したいと思っています。また、イベント参加者にはリピーターが多いのですが、新規参加の学生を増やすことも目標の一つです。

中村 これまで以上に参加者に寄り添えるスタッフになりたいと思っています。運営は優先順位を明確にすることも大切です。また充実したイベントにするためには、参加者だけでなく、スタッフも含めた全員が心から楽しめる企画でなければならないと考えています。

福田 企画する時点で無意識の内に発想の範囲を限定している気がします。実現の可能性にとらわれず、画期的なイベントを創出したいと思っています。そのため、あらゆる情報を貪欲に取り込み、自分の引き出しを増やすことが重要だと考えています。

鄭 本学の学生に向けたメッセージをお願いします。

秋山 キャンパスで見かけるだけでは、留学生に関心があっても、言葉をかけ

づらいのではないのでしょうか。SIEDが開催するイベントでは、多くの留学生が参加し、気さくに交流することができます。小さな勇気があなたの世界を必ず大きく広げてくれます。

福田 国際交流というとハードルが高いと感じたり、自分にはあまり関係がないと思ったりする方が少なくないかもしれません。とにかく一度、街角の本屋さんに立ち寄るような気軽な感覚でイベントに参加してください。そこには本を読むことだけでは得られない面白い情報や刺激的な体験があります。

中村 両校地にある国際交流ラウンジに来てください。SIEDスタッフが歓迎します。外国語が苦手でも大丈夫です。多彩なイベントも続々企画中です。

加藤 「英語が上手になりたい!」「留学生と交流したい!」「外国や日本の文化を学びたい!」といった様々なニーズにSIEDがお応えします。続けて参加したくなるようなイベントをご用意して、あなたをお待ちしています。

鄭 それぞれの発言を通じて誰もが明確なビジョンを掲げ、SIEDの活動に果敢に取り組んでいることが実感できました。今後の活躍を期待しています。本日はどうもありがとうございました。

イベント参加の留学生の声



トラン ティン チー
Tran Thien Tri

2015年4月～
ビジネス研究科に在学
(ベトナム出身)



これまで数多くのSIEDのイベントに参加しました。最も印象に残っているのは「日本の心を知る～座禅～(大徳寺・大仙院)」です。初めての体験でした。法話や禅画も興味深かったです。いずれのイベントに参加しても、何か新たなことが学べるので、全てが私の役に立っています。茶道、ヨガや座禅の教室、和食に関する企画も開催してほしいと願っています。SIEDのおかげで留学生活がより充実したものになっています。本当に感謝しています!



マルタ ボラスキ
Marta Boraschi

2016年9月～2017年3月
日本語・日本文化教育センターに在学
(イタリア出身)



SIEDのイベントは全てが素晴らしいので、一つだけ選ぶことは難しいですが、特に感激したのは「京都散策～嵐山～」です。座禅を体験し、アメリカ人僧侶から仏教の教えを聞き、新しい友達(留学生と日本人学生)もできました。大好きな嵐山を再訪できたのもうれしかったです。SIEDの一番良いところは数多くの日本人学生と出会えること。これからの企画で金閣寺や銀閣寺のような京都らしい所をもっと巡りたいと願っています。SIEDは最高です!!



ゼミナール

Seminar

ゼミ探訪学びの時間



グローバル地域文化学部 わたなべ ふみ 渡辺 文ゼミ 【グローバル地域文化学部助教】

テーマは多種多様。 人類学をつうじて、他者とともに 生きる喜びと責任を学んでほしい。

毎回異なるゼミ生が発表し
その論旨を徹底議論する

人 類学が渡辺文助教の専門分野である。ホモサピエンスに共通する普遍性と環境に根ざした各文化的集団の個別性の両方を探究する学問であり、この観点からオセアニアの芸術を研究している。例えば、フィジーでは参与観察に基づく長期フィールドワークを行い、1990年代に始まったレッド・ウェーブ・アート（絵画芸術の様式や世界認識）を追究し、その成果を『オセアニア芸術—レッド・ウェーブの個と集合』（京都大学学術出版会：2014）に結実させた。昨年4月に着任し、

グローバル地域文化学部に設けられた3コースの中でアジア・太平洋コースを担当している。

渡辺ゼミではゼミ生が個々に独自の研究テーマを選ぶ。その対象はフィリピンの人々が何かを深く信じるプロセスと音との関わりや究明、世界一住みやすい街といわれるメルボルンの好感度の指標などの考察、ミャンマーにおけるモノづくりと習慣との関係性の解明など実に多彩である。テーマの選出については、その前提となる基準を提示している。「自分が大好きなこと」、「世界の根幹的な問題と思うこと」という二つの視点。この思索が学びの第一歩になるという。また、研究では学

会誌などに掲載されたアカデミックな学術論文を厳選し、精読するように指示している。文化の考究は主観に傾斜する場合が少なくないからである。

「ゼミでは毎回、異なる発表者と議論を進行するサポーター役を事前に決めています。これも本ゼミの特徴の一つです。発表者は選んだ論文を熟読し、議論の要点などを整理して当日に備えます。重要なのは記述することです。これによって理解が深まり、思考力を



鍛えることができます。1週間前に全員に内容を提示し、各ゼミ生も疑問点などをチェックしておきます。議論を深めるための施策です。日本の学生の多くはアウトプットに慣れていない。このゼミで『生産的に議論する能力』も高めてほしいと願っています」。秋学期には、「ライフストーリー」と称するフィールドワークも実施した。個々が強い関心を抱いている人物に取材を試み、その中核となる部分を文字化することによって熟考し、これを基に全員で討議した。渡辺先生がゼミ生に最終的に学んでほしいのは「人間の共生」である。明らかに異なる個々を実感し、それを背負って共に生きるという姿勢を培ってほしいと語る。

取材当日は前川佳奈さんが発表を行い、河合志帆さんがサポーターを担当



した。前川さんが選んだ論文のタイトルは「対話するフィールド、協働するフィールド：開発援助と人類学の『実践』スタイル」（関根久雄、『文化人類学』72（3）：361-382, 2007）。内容はソロモン諸島マライタ州の開発 NGO を事例にした開発フィールドワーカーと人類学者の関係の在り方を「対話」や「協働」

の視点から探究したものである。まず、河合志帆さんが進行の概要を案内し、これに基づいて前川佳奈さんが①論文説明(タイトル・著者・キーワード)、②本論文を選んだ理由、③前説、④詳細説明を実施した。前説の部分からソロモン諸島の言語、現在も続く争いなどについて渡辺先生の的確な指摘が入る。発表の終盤で地域住民の視点に寄り添い、対話する機会を積極的に創出し、文化的な視点からも関与するという創発的協働を考察して約60分の発表が終了。直ちに発表者とゼミ生との質疑応答が渡辺先生の助言や事例なども交えながら活発に繰り広げられ、最後に今回のポイントが「協働」であることを渡辺先生が提示して授業は終了した。

フィールドワークを駆使し 自己のテーマを探究する

渡 辺ゼミには3年次生10人(男性3人・女性7人)が所属している。河合志帆さんは、興盛するアジア各国に向けて、日本の文化や魅力をどのように発信していくかということに強い関心を抱いている。本ゼミでは卒業研究のテーマとしてミャンマーにおけるモノづくりと習慣との関係性を探究する予定である。「私にはフィールドワークという手法が合致しており、これを駆使した調査・分析を想定しています。ミャンマーを選んだのは、すでにこの地でNPOを立ち上げ、活動している友人がおり、協力が得られると考えたからです」。春休みに現地に入り、集中的なフィールドワークを開始する。馬目梨名さんはウェブサイト上で渡辺先生の研究概要を知り、本ゼミを選択したという。「私がやっていたと考えていたことに最も近かったので、即決しました。主体的に選んだテーマを探究でき、他のゼミ生の研究からも多くの学びが得られる刺激に満ちたゼミです」。卒業研究はメルボルンを拠点にオーストラリアの多文化主義を考究する。

人類学に興味を持ち、文化を深く学べると考えて、渡辺ゼミを選んだと語るのは蒲原朱音さん。卒業研究のテーマは熟考中であるが、観光人類学を起

点にアボリジニなどの先住民の観光を取り上げ、その変遷を探究する候補となっている。前川佳奈さんは世界各地で盛んに行われている地域開発を現地の人々の視点から考察している。「世界史が好きだったので本学部を選んだのですが、人類学は全く未知の世界でした。でも、渡辺ゼミで自分が追究したい領域が明確になってきました」。卒業研究のテーマも「開発援助」を想定している。田村将士さんは「人類学であれば、じっくりと自分の研究対象を探り、取り組むことができる」と考えて渡辺ゼミに所属した。2014年に京都府の事業として公募のあった「防災サークル」に参加し、防災の啓発活動に取り組んできた経緯から卒業研究のテーマにできないかと模索しているが、まだ糸口が見いだせないという。もう一つの候補は祖母の介護をきっかけに興味を抱いた介護福祉で、これは

卒業後の進路としても一考している。

直近まで韓国に留学していた大山祐梨那さんは、女性の視点から家族や結婚を探究しており、卒業研究では日韓における結婚移住女性を取り上げる。「最近、東南アジアの女性が韓国や日本、中国の男性と結婚した後、様々な困難に直面しています。以前、カンボジアで出会った女性も同様の境遇にあり、『いま、私は幸せではない…』という彼女の嘆きの言葉がこの問題に目を向けるきっかけになりました」。浅野桃子さんは、「なぜ、人は他国へ移り住もうとするのか」ということに強い関心を持っている。例えば、中国では高い教育を受け、国内に働く場があるにもかかわらず、海外に向かう人々が数多くいるという。彼女は5歳から12歳まで中国で過ごした経験なども踏まえて、その理由を多角的な観点から研究したいと考えている。

討論は不得意だったのですが、渡辺先生に上手く引き出してもらっています。最近では苦手意識が薄らぎました。

3年次生 田村 将士さん

渡辺先生の真摯な姿勢や鋭い指摘に敬服しています。でも、普段は実に優しい。ゼミの雰囲気申し分ありません。

3年次生 馬目 梨名さん

留学中も渡辺先生に何度もメールを送り、様々な相談に乗っていただきました。その細やかなご対応にも感謝しています。

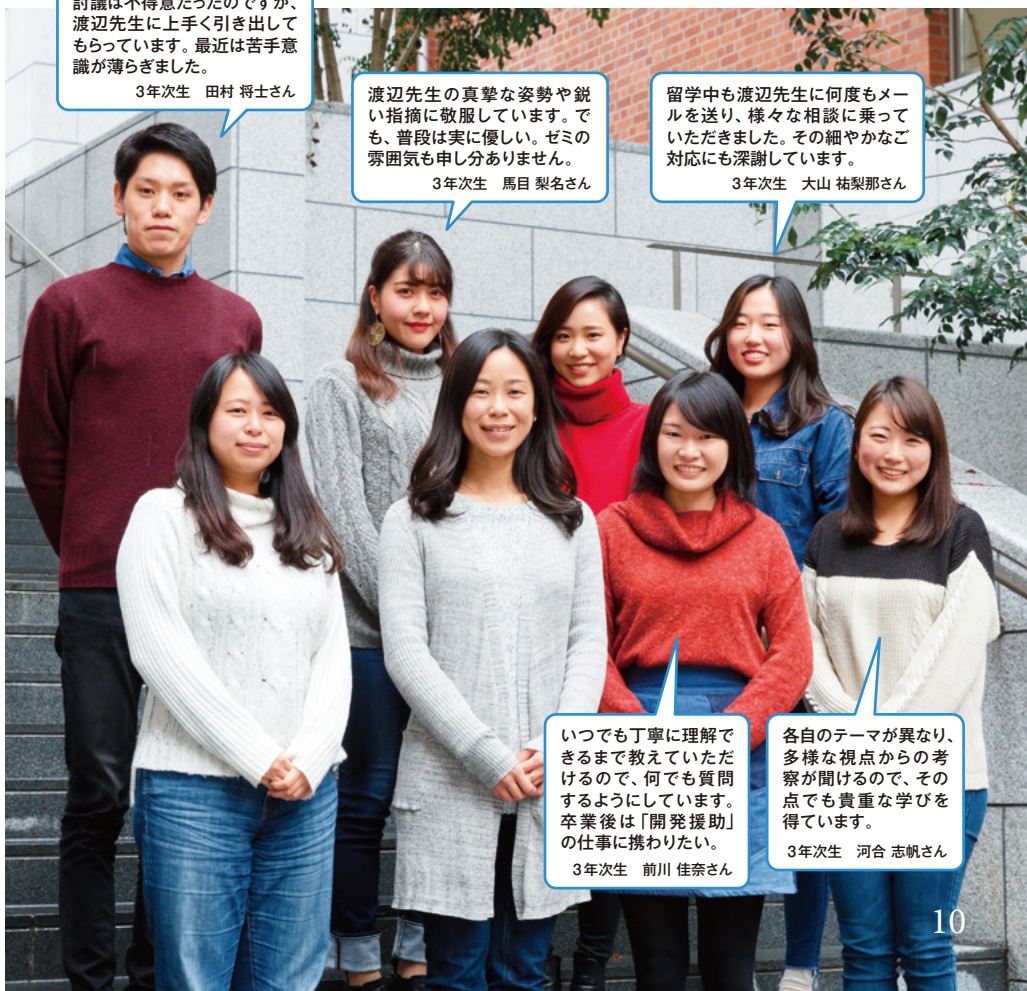
3年次生 大山 祐梨那さん

いつでも丁寧に理解できるまで教えていただけるので、何でも質問するようにしています。卒業後は「開発援助」の仕事に携わりたい。

3年次生 前川 佳奈さん

各自のテーマが異なり、多様な視点からの考察が聞けるので、その点でも貴重な学びを得ています。

3年次生 河合 志帆さん



有人火星探査に不可欠な低重力環境への適応を探る 老化などによる歩行困難の原因究明と抑制に挑む

世界各国で宇宙探査が活発に推進されている。この壮大なミッションに大きく貢献するために、宇宙医科学研究センターでは月および火星の重力環境(1/6-Gおよび3/8-G)への適応をNASA(アメリカ航空宇宙局)ジョンソン宇宙センターなどとの共同研究によって多角的に探究している。また、国内外で深刻な問題となっている老化や身体機能の低下による歩行困難の原因解明や防止・抑制策の研究にも取り組んでいる。なお、本研究センターでは宇宙科学に関する新たな人材育成にも力を注いでおり、この分野に強い関心を抱く学部を超えた学生の積極的な参加を歓迎している。



宇宙医科学
研究センター

おおひら よしのぶ
センター長 **大平 充宣**

【スポーツ健康科学部・研究科特別客員教授】

1973年東京教育大学大学院修士課程体育学研究科修了、1977年カリフォルニア大学ロサンゼルス校修士課程キネシオロジー中退、1980年南カリフォルニア大学大学院博士課程修了。少年時代から空に興味を抱き、模型飛行機や天体望遠鏡に熱中。その後、NASAの研究に関わり、宇宙飛行士の募集にも応じ、5次試験までクリア。スポーツも大好きで学生時代はサッカーに励み、現在も時折ゴルフを楽しんでいる。

体重免荷状態での生体反応を精査

現在、NASA (アメリカ航空宇宙局) は世界初の有人火星探査の実現を目指している。この雄大な計画を成功させるためには、数多くの課題をクリアしなければならない。特に重要なのが人体への影響を解明し、クルーの安全を保持することである。「火星までは最も近い距離にある時でも片道で約半年を要し、しかも約1年間という長期滞在を予定しています。火星の重力は地球の約8分の3であり、往復時には無重力の状態になります。非常に厳しい環境であり、適応できなければ深刻なダメージが生じます」。昨年3月に国際宇宙ステーション (ISS) からケリー宇宙飛行士が約1年間の長期宇宙滞在を終えて帰還したが、これも有人火星探査に向けた布石である。

本研究センターではNASA ジョンソン宇宙センターのハンソン博士およびカリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) のハーゲンス博士との共同研究で、この課題に取り組んでいる。前者では本学のスポーツ健康科学部に設置された体重免荷マシン「反重力トレッドミル」によって体重免荷状態での歩行や走行中の生体反応を精査し、宇宙飛行士の事前トレーニングの有効性や空気圧の変化による体液シフトなどを探究している。NASA ジョンソン宇宙センターの身体懸垂仕様の「反重力トレッドミル」でも同様の研究を実施し、双方の機器の比較研究も本年夏季に行う。UCSD のハーゲンス博士は「反重力トレッドミル」の開発者であり、その性能向上や新たな活用法などを研究中である。また、国際宇宙ステーションのNASA デスティニー (米国製モジュール) で、搭乗中の宇宙飛行士を対象にした実験も計画している。身体が浮き上がらないようにバンジーコードでトレッドミルに身体を引き寄せた歩行によって各種の測定を試みる。



放射線から人体を守る研究にも着手

長期宇宙滞在によって誘発される人体への影響を推定するために、ラットやマウスを用いた実験も行っている。「帰還直後の宇宙飛行士は歩行困難に陥ります。本研究センターのアドバイザーである元宇宙飛行士の向井千秋

先生 (東京理科大学) から同様の体験談をお聞きしました。これは筋力低下の他に感覚神経活動の鈍化も一因であると判断しています。国際宇宙ステーション内でマウスを約3カ月間飼育した結果でも、明確な変化が起きました。脳神経細胞のタンパク質を作る遺伝子の発現量が減少したのです。これも今後の重要な研究対象です」。また、抗重力筋活動をしなければ、自己免疫疾患は生じないことも確認されている。これは大阪大学在籍中から継続している村上正晃先生 (北海道大学) との共同研究の成果であり、さらに解明していきたいという。

宇宙空間では長期間にわたって放射線を浴びることになる。この脅威から宇宙飛行士を守るために、新たな研究にも着手している。マンガン SOD (スーパーオキシドディスムターゼ) は、細胞内に発生した活性酸素を除去する酵素であり、がん治療でも放射線照射による悪影響を抑えるために投与されている。これが宇宙船のクルーに放射線が及ぼすダメージを軽減し、筋力低下等を抑止するのにも役立つのではないかと考えられている。また、この研究成果は抗老化にも貢献する。活性酸素は酸化力が強く、体内の細菌類を除去する効果があるが、加齢によって過剰になると細胞を劣化させる。活性酸素の増加を防げれば、老化を抑制できるからである。

病院で効率的な歩行訓練方法を探究

超高齢化社会を背景に健康寿命の延伸を阻害する運動器症候群 (ロコモティブシンドローム) が注視されている。これらは加齢による変形性関節症や骨粗鬆症などの運動器疾患、筋力や運動能力の低下などの身体機能の衰えに起因する。そこで、「寝たきり」や「要介護」などに直結する歩行困難を防止・改善するために、筋萎縮メカニズムなどの問題解明に力を注ぎ、体重免荷マシンを活用したりハビリテーション方法の開発にも取り組んでいる。体重を免荷すれば、早期の歩行訓練が可能になり、個々に最適の免荷量や歩行速度を設定することによって優れた効果が期待できる。現在、「反重力トレッドミル」を提携先の病院に設置し、患者の方々を対象に、具体的な研究を実施中である。さらに、スポーツ健康科学の視点から低重力環境シミュレーションモデルを利用したランナーのトレーニング処方も探究している。例えば、ケニアの卓越したマラソン選手の多くは、短距離走のようなつま先着地で走っている。彼らは幼年時代から裸足で野山を駆けており、足を守るために自然に身に着いた走法である。スピードアップのために日本選手がこの走法に変えるのは困難であるが、体重を軽減して試みれば、画期的なトレーニングプログラムとして結実する可能性があり、これを検証している。



ホームカミングデー2016・同志社創立141周年記念リユニオンを終えて

2016年11月13日、ホームカミングデー2016・同志社創立141周年記念リユニオンを今出川キャンパスで開催しました。当日は5年ぶりの晴天に恵まれ、約2,000人の卒業生やそのご家族にご来場いただきました。



開会式に始まり、集合写真撮影、学長講演、卒業生の交流レセプションなど様々なプログラムが催されました。

同志社校友会は学生のプロジェクトチームを編成し、「同志社マルシェ・1日県人会」を開催しました。「同志社マルシェ」では九州各支部の協力を得て、九州物産展および

屋台で九州の名産品を振る舞いました。併せて、熊本地震で倒壊したジェーンズ邸の再建支援Tシャツを販売し、熊本支援の一助としました。「1日県人会」では、下宿生を中心とした学生スタッフが全国各地からキャンパスに戻ってこられた同郷の卒業生と交流し、大変喜んでいただきました。

また、同志社同窓会が企画した「いっぽくカフェ」では、参加者とともに讃美歌を斉唱し、「新島襄ボストン・アーモスト渡航150周年ツアー」のDVDが放映され、多くの方に参加いただくことができました。

その他、グリークラブによる合唱、応援団の演舞、新島旧邸見学、キャンパスツアー、子ども向けのイベントなどのプログラムを開催し、多くの参加者楽しんでいただいたホームカミングデーとなりました。次回も卒業生が母校へ集い、旧友との懐かしいひと時を過ごせる一日を提供したいと考えています。

(校友課)

2016年度秋学期 外国語honors認定書授与式

2016年12月8日、今出川キャンパスクラーク記念館(クラーク・チャペル)にて、2016年度秋学期外国語honors認定書授与式を挙行了しました。外国語honors制度(外国語科目成績優秀者表彰制度)は、高度な外国語運用能力と国際的な視野と見識を備えた人材の育成を目標に、外国語について優秀な成績を修めた学生を表彰する制度で、2006年度春学期から導入しています。

授与式では、稲岡恭二教務部長の司会のもと、松岡敬学長が祝辞を述べ、外国語科目成績優秀者一人ひとりに認定書と記念品を手渡しました。

認定を受けたのは、文学部4人、社会学部1人、法学部2人、経済学部2人、商学部1人、生命医科学部1人、グローバル・コミュニケーション学部4人、グローバル地域文化学部11人の計26人で、言語の内訳は、英語10人、ドイツ語3人、フランス語2人、中国語5人、ロシア語1人、ロシア語3人、日本語2人でした。

認定書を授与された学生は、以下の通りです。(敬称略)

■外国語honors(英語)

- 平野かれん(文学部・2014年度生)
- 西山 美羅(文学部・2014年度生)
- 渡邊 祈里(文学部・2014年度生)
- 伊賀 康峰(経済学部・2012年度生)
- 三枝 守輝(経済学部・2013年度生)
- 林 由佳(グローバル・コミュニケーション学部・2013年度生)
- 喜多 里奈(グローバル・コミュニケーション学部・2013年度生)
- 増野 朱菜(グローバル地域文化学部・2014年度生)
- 森田 真歩(グローバル地域文化学部・2014年度生)
- 太原 万葉(グローバル地域文化学部・2014年度生)

■外国語honors(ドイツ語)

- 丸山 祐矢(グローバル地域文化学部・2013年度生)
- 大野 有香(グローバル地域文化学部・2013年度生)
- 古川 実花(グローバル地域文化学部・2014年度生)

■外国語honors(フランス語)

- 寺田 恵(生命医科学部・2013年度生)
- 池上 優子(グローバル地域文化学部・2013年度生)

■外国語honors(中国語)

- 稲澤 里咲(法学部・2013年度生)
- 平田 正文(法学部・2013年度生)
- 福崎菜乃佳(グローバル地域文化学部・2013年度生)
- 葛上 奈緒(グローバル地域文化学部・2013年度生)
- 藤井 佑有(グローバル地域文化学部・2014年度生)

■外国語honors(ロシア語)

- 砂田麻優子(グローバル地域文化学部・2014年度生)

フィリップス・アカデミーとの協定締結

この度、学校法人同志社とフィリップス・アカデミーは、学術的・文化的交流を深める協定を締結しました。

同志社の創立者である新島襄は、幕末の1864(元治元)年、激動する日本の将来を憂い、国禁を犯して脱国し、約10年間にわたってアメリカのフィリップス・アカデミーやアーモスト大学等で学び、キリスト教の洗礼を受けて帰国し、国内外の多くの人々の協力を得て、また、見えざる神の手に導かれて、1875(明治8)年11月29日、京都の地に同志社英学校を設立しました。

2015年は、新島襄がフィリップス・アカデミーに入学して150周年、同志社創立140周年の記念の年であり、これを記念して、学校法人同志社はフィリップス・アカデミーと協定を締結する方向で調整を進め、この度の締結となりました。

フィリップス・アカデミーは、アメリカ合衆国マ

サチューセッツ州アンドーヴァーに所在し、テンスクールと呼ばれるアメリカ合衆国内において歴史的起源が古く権威のある名門ボーディングスクール10校の中の1校です。

現在、フィリップス・アカデミーとは、同志社香里中学校・高等学校と同志社国際中学校・高等学校がサマーセッションへの参加や訪問を行うなど個々の学校レベルでの交流は行われていますが、今回法人レベルでの協定を締結したことで、組織的な対応が可能となり、新たな連携につながる事が期待されます。

(法人事務室)



■外国語honors(韓国語)

中野有希子(文学部・2013年度生)
野田 晋宏(社会学部・2014年度生)
山崎 千穂(商学部・2014年度生)

■外国語honors(日本語)

李 炫知(グローバル・コミュニケーション学部・2013年度生)
周 一可(グローバル・コミュニケーション学部・2013年度生)



(今出川校地教務課)

国立長寿医療研究センターと 教育・研究に関する協定締結

1月13日、本学と国立長寿医療研究センター(所在地:愛知県大府市)は、教育・研究に関する協定を締結しました。この協定に基づき、本学スポーツ健康科学研究科と国立長寿医療研究センターの老年学・社会科学研究センターがそれぞれの特徴を生かし、教員の共同研究、スポーツ健康科学研究科学生の同研究センターでの研究参加などにより、研究の推進を図ります。

スポーツ健康科学研究科の井澤鉄也研究科長は「日本の健康寿命が延びている中で、人が健やかに生きるための研究が次世代に脈々と受け継がれていくよう、この連携によって若手研究者の育成を目指したい」と述べ、国立長寿医療研究センターの柳澤勝彦研究所長は「これまで培ってきた医学的な研究にスポーツ科学が加わることでさらに研究が発展することを期待したい」と述べられました。

今後、同研究センターの医学研究と本学のスポーツ科学を融合させ、筋肉老化の病気や認知症予防に関する研究の発展が期待されます。



(広報課)

南アフリカ共和国大統領顧問が本学に来訪

1月20日、南アフリカ共和国大統領顧問、エブラヒム・エブラヒム氏が本学を訪れ、今出川キャンパスの有終館にて、グローバル・スタディーズ研究科、ビジネス研究科所属の南アフリカ出身の留学生たちと懇談を行いました。

エブラヒム氏は、南アフリカの民主化の背景、現在の教育や経済状況(「黒人の経済力強化政策(BEE)」等)について問題提起し、若い世代が積極的にリーダーシップを取っていくことが将来の国の発展のために必要不可欠である、と留学生たちを激励しました。

出席した留学生たちは、独立行政法人国際協力機構(JICA)の「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)」の主要な取り組みである『修士課程およびインターンシップ』プログラムのもとで来日しています。ABEイニシアティ



ブの目的は、アフリカ各国の有望な人材を日本へ受け入れ、知識や技能を教授し、日本社会や日本企業に理解を持つアフリカの高度産業人材の育成を行うことです。

懇談では、雇用問題を中心に積極的な質問、コメントがあり、予定時間をオーバーして活発なディスカッションが行われました。また、同席したロイス・B・クズワヨ南アフリカ共和国大使館公使からも学生を支援する力強いアドバイスがあり、学生たちは貴重で有意義な時間を過ごすことができました。

(グローバル・スタディーズ研究科事務室)

2016年度プロジェクト科目 秋学期成果報告会

1月22日、今出川キャンパス良心館ラーニング・コモンズにて、全学共通教養教育科目「プロジェクト科目」2016年度秋学期成果報告会を開催しました。春学期・秋学期連結科目14クラス、秋学期科目1クラスの履修生が、活動の成果をまとめたポスターを基にポスターセッション形式で最終報告を行いました。

当日は、企業や教育機関関係者、本科目の過年度履修生、保護者の方など、約240人が参加し、会場は終日活気に満ちていました。

ポスターセッションでは、履修生が活動の経緯や成果を伝え、聴衆からも質問や課題が投げかけられるなど、各ブースで活発なやり取りが見られました。積極的に聴衆に声をかけ、呼び止める履修生の姿からは自分たちの活動を伝えようとする熱意が伝わってきました。

表彰式の講評では、多くの科目が一定の成果に到達していることや、目標達成に向かう過程を軽視せず、きちんと向き合っている点を高く評価されましたが、例年審査を担当している審査員からは、厳しい声も聞かれました。学生ならではのオリジナリティや

独創性に欠けるといった指摘や、チームでプロジェクトを行う利点を感じられない等、活動の内容や成果の社会的意義といった面でより深いものが求められるのも、プロジェクト科目に寄せられる期待の大きさゆえかもしれません。終了後の履修生たちは、皆、達成感に包まれた晴れ晴れとした表情でした。



最後に、最優秀賞、優秀賞および特別賞の表彰が行われました。

各賞は以下の通りです。

■最優秀賞

- 「グルメ同志社のお店100選」企画・発行プロジェクトについて

■優秀賞

- 留学生と創る「錦市場：京の食文化読本」制作プロジェクト

■特別賞

- プロバスケを盛り上げよう!
～認知向上・集客をマーケティング

(今出川校地教務課)

同志社グリークラブが熊本支援コンサートを実施



同志社ゆかりの地である熊本で2016年4月の地震により被災された方、その後も押し寄せる4,000回を超える余震により不安な生活を送られている方を勇気づけるために、どのような支援ができるかを考えてきました。その結果、2月19日に同志社グリークラブの協力のもと、熊本支援コンサートを行いました。

朝から熊本城マラソンの沿道応援イベントに参加し、南熊本交差点付近にてグリークラブが23人で合唱しました。グリークラブの希望により、「ジェーンズ邸再建支援Tシャツ」を着用し、マラソンランナーと熊本の皆さんへエールを送りました。

マラソンの応援に来られた地元の方からは「わざわざ京都から来てくれてありがとう」、「私の知人も同志社の卒業生。このマラソンに出場しているので、同志社グリークラブの応援を聞くと喜ぶはず」と、温かい声をいただきました。

その後、午後からは市民会館シアーズホーム夢ホールで「♪響け歌声♪熊本の空に!!男声合唱コンサート」を行いました。卒業生、在学生父母に加えて、市民の方々

の来場が多数あり、約250席の会場はほぼ満席になりました。

松岡敬学長からの挨拶の後、グリークラブは地元の民謡「おもてやん」を含む17曲を合唱しました。「花は咲く」の場面では、涙ぐむ来場者の姿がありました。途中、グリークラブに所属する熊本出身の学生から、熊本の皆さんに向けてメッセージを送る場面もありました。コンサート終了後、校友会熊本県支部の木下智夫支部長から全壊したジェーンズ邸の復旧について、状況報告がありました。

終了後、会場からのアンコールの声に込め、追加演奏し、コンサートは大盛況で幕を閉じました。

コンサート終了後、会場出口でのグリークラブの合唱で来場者を見送りましたが、その歌に聞き入る方々の姿が多く見受けられました。来場の皆さんからは温かい声をいただき、心に寄り添える支援になったのではないかと思います。

(校友課)

特定寄付奨学金募金協力者ご芳名

経済的理由で修学を続けることが困難になっている学生を援助するために、2004年4月から「同志社大学特定寄付奨学金募金」を広く社会界に呼びかけています。

2017年1月末までに、卒業生、ご父母、一般の方々および教職員から以下の通りご協力をいただきました。

2016年4月～2017年1月の申込者

	申込件数	申込額
卒業生・ご父母・一般	97件	6,092,500円
教職員	60件	3,308,000円
合計	157件	9,400,500円

ご芳名(敬称略、順不同)

【卒業生、ご父母、一般】

- 2,400,000円 同志社生活協同組合
- 500,000円 公益財団法人吉田育英会
- 200,000円 同志社大学職員カレー部(仮)
- 100,000円 安田 徹 蔭山 淳 國松 直博
医療法人社団石鏡会田辺中央病院
- 50,000円 米田 昇平 北原 敏夫
- 36,500円 柳井 繁彌
- 30,000円 川向 幹男
- 20,000円 北之坊 皓司 大坂 岱樹
山村 倬一 山中 光太郎
- 15,000円 松本 邦博
- 10,000円 堀口 治 森 一博 前田 耕司
野村 武男 松本 幹夫 岡本 勲
濱田 純一 藤原 喜久雄 佐藤 信夫
岩本 憲彦 加藤 肇 小林 英彦
- 5,000円 稲川 一男 川野 修平

ご芳名のみ(金額非掲載)

- 森田 秀夫 三上 保孝 高井 衛 大槻 哲彦
- 柳谷 婦美 越智 昭彦
- 同志社 TOKYO EVE party 参加者一同
- 脇山 繁昭 柴田 博昭 浦野 利信 周参見 武
- 山下 文憲 桂 直仁 浅見 正信 田原 靖之
- 野口 劭 桑田 泰弘 鈴木 雄二 上倉 嘉平太
- 山本 博万 富岡 努 内山 洋一 中嶋 兵庫
- 赤石 一憲 糸尾 隆 磯島 早登 倉島 正夫
- 中山 正明 大森 和彦 斎藤 俊信 兵頭 俊彦
- 岡本 多久司 増山 記一
- 1,233,000円(匿名合計) 匿名12名

【教職員】

- 120,000円 北 寿郎
- 90,000円 徐 啓和
- 60,000円 植村 巧 桂 良彦 石田 修一
- 30,000円 吉川 健
- 25,000円 西川 真司
- 12,000円 北 幸史

ご芳名のみ(金額非掲載)

- 山下 利彦 兼重 雅好 浜中 邦弘 藤井 邦宏
- 新茂之 富田 安信 勝本 勲 林 克樹
- 三好 博昭 TROMOVITCH, PHILIP 窪田 光男
- 山口 教宏 戸田 裕之 森田 佳世子 岡本 由美子
- 今川 晃 中村 拓也 宮本 佳奈 島田 雄二
- 磯野 聡司 堀井 克敏 酒井 優 廣田 宗之
- 1,008,000円(匿名合計) 匿名27名

当募金は継続的に行っていますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】財務部資金課

TEL:075-251-3150

E-mail: ji-sikin@mail.doshisha.ac.jp

Twitter 公式アカウント始動!

新島襄の生誕日である2月12日、本学でもついにTwitterを始めました。今後は、イベント情報や学生の活動などを発信しますので、ぜひご覧くださいね!

(広報課)

右記QRコードを読み込んでいただくページを閲覧できます。



【公式アカウント始動!】
本学でもついに重い腰を上げて、新島襄の生誕日の今日、Twitterが始まります。イベント情報や学生の活動などを発信しますので、ぜひご覧くださいね!

#同志社大学公式 #ついにですか #どうした同志社 #必死なんです(汗)



同志社大学VISION2025 特設ホームページ公開

創立150周年に向けて本学の教育・研究体制などの方針をまとめた「同志社大学VISION2025」の特設ホームページを公開しました。

「同志社大学VISION2025」の核となる6つのテーマやコンセプトの紹介、学長メッセージを掲載しています。

今後、順次情報を更新していきますので、ぜひご覧ください！

「同志社大学VISION2025」の特設ホームページは下記のURL、もしくは右記QRコードから閲覧できます。

<http://doshisha-vision2025.jp/>



本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

京都企業 歴史と空間の産物

酒井絢美(商) 他 著 中央経済社 2,800円

ソーシャルワークの理論と実践

小山隆(社) 他 編著 木原活信(社)
空閑浩人(社) 他 著 中央法規出版 4,000円

園城寺の仏像 第一巻

井上一稔(文) 他 編 思文閣出版 12,000円

異文化間教育のフロンティア

山田礼子(社) 他 著 明石書店 3,000円

イギリス革命論の軌跡

圓月勝博(文) 他 著 蒼天社出版 2,800円

ドイツ会計現代化論

福見亨(商) 他 著 森山書店 3,500円

ホメイニー イラン革命の祖

富田健次(神) 著 山川出版社 800円

理論刑法学の探究9

十河太郎(司法研) 他 著 成文堂 4,200円

徹底検証安倍政治

服部茂幸(商) 他 著 岩波書店 1,900円

〈オトコの育児〉の社会学

阿形健司(社) 他 著 ミネルヴァ書房 2,400円

Long-term effects of Learning English

植松茂男(GR) 著 Springer

英語指導のスキル

植松茂男(GR) 他 編著 日本書籍 1,300円

越境と連動の日系移民教育史

吉田亮(社) 他 著 ミネルヴァ書房 8,000円

ニカラグアを知るための55章

松久玲子(GR) 他 著 明石書店 2,000円

自ら実感する心理学

余語真夫(心理) 他 著 保育出版社 2,270円

教養のドイツ現代史

石井香江(GR) 他 著 ミネルヴァ書房 3,000円

生きるユダヤ教

勝又悦子(神) 他 著 教文館 2,500円

言葉で広がる知性と感性の世界

能登原祥之(文) 他 著 溪水社 4,500円

経営管理論

高井紳二(商) 他 著 中央経済社 2,400円

FTA・TPPの政治学

大矢根聡(法) 他 編著 有斐閣 3,800円

希望への陰謀

浜矩子(ビシ研) 他 著 現代書館 1,800円

やさしく学ぶ道德教育

新茂之(文) 他 著 ミネルヴァ書房 2,200円

手塚マンガの不思議

竹内オサム(社) 著 晃洋書房 2,300円

「仁風」史料集成 全4巻・別冊1

小林丈広(文) 監修 小林丈広(文) 著
近現代資料刊行会 96,000円

地域福祉の学びをデザインする

上野谷加代子(社) 他 編著 永田祐(社) 他 著
有斐閣 3,800円

貨幣と銀行

服部茂幸(商) 著 日本経済評論社 4,200円

所得分配と経済成長

服部茂幸(商) 著 千倉書房 2,400円

電気電子材料

吉門進三(理工) 他 著 オーム社 2,600円

文化経済学

河島伸子(経済) 他 編著 井口貢(政策) 佐々木雅幸(経済)
八木匡(経済) 他 著 ミネルヴァ書房 6,000円

ドイツ会社法・資本市場法研究

山下友信(司法研) 船津浩司(法) 他 著
中央経済社 9,200円

憲法用語の源泉をよむ

尾形健(法) 他 著 三省堂 3,200円

新・発達心理学ハンドブック

内山伊知郎(心理) 他 著 福村出版 30,000円

活躍する女性会社役員の国際比較

中村聡子(GC) 他 著 ミネルヴァ書房 3,000円

レコードは風景をだいなしにする

柳沢英輔(文情) 他 訳 フィルムアート社 2,800円

文化財からみる越前市の 歴史文化図鑑

井上一稔(文) 他 編著 越前市教育委員会文化課市史編さん室

現代商事法の諸問題

川口恭弘(法) 船津浩司(法) 他 著 成文堂 27,000円

となりのイスラム

内藤正典(GS) 著 ミシマ社 1,600円

近代科学のリロケーション

水谷智(GR) 他 訳 名古屋大学出版会 5,400円

最強の社会調査入門

デブナール・ミロシュ(社) 他 著 ナカニシヤ出版 2,300円

2020年に挑む中国

嚴善平(GS) 他 編著 文真堂 2,800円

歴史としての社会主義

川越修(経済) 他 編著 ナカニシヤ出版 4,200円

同志社生協設立50年発祥110年 記念誌 きょうとからの出発

庄司俊作(人文研) 他 編 同志社生活協同組合 1,905円

新任教員紹介

授業科目を担当する専任教員を紹介します。

①所属(学科/専攻) ②職名 ③主な担当科目



李 元重
(リ ウォンジュン)
①神学研究所
②助手



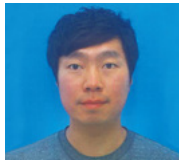
阿部 俊大
(アベトシヒロ)
①文(文化史)②准教授
③西洋中世史(1)



山本 佐和子
(ヤマモト サワコ)
①文(国文)②助教
③日本語学講読(C)



大山 和哉
(オヤマ カズヤ)
①文(国文)②助教
③日本文学講読(近世C)



姜 民護
(カン ミンポ)
①社会学研究所(社会福祉学)
②助手



小川 恵
(オガワ ケイ)
①法(法律)②助教
③リーガル・リサーチ



服部 昌彦
(ハットリ マサヒコ)
①経済(経済)②助教
③基礎演習



迫田 さやか
(サコダ サヤカ)
①経済(経済)②助教
③基礎演習



久松 太郎
(ヒサマツ タロウ)
①商(商)②准教授
③国際経済学



山下 麻衣
(ヤマシタ マイ)
①商(商)②准教授
③企業者史



牧 大樹
(マキ ダイキ)
①商(商)②准教授
③計量経済学



洪 性奉
(ホン シンボン)
①商(商)②助教
③アカデミック・リテラシーI



鬼頭 弥生
(キトウ ヤヨイ)
①商(商)②助教
③アカデミック・リテラシーI



久納 誠矢
(クノウ セイヤ)
①商(商)②助教
③基本統計学



村上 裕美
(ムラカミ ヒロミ)
①商(商)②助教
③アカデミック・リテラシーI



山谷 清秀
(ヤマヤ キヨヒト)
①政策(政策)
②助手



中安 真理
(ナカヤス マリ)
①文化情報(文化情報)
②助教③美術史学



田中 雄
(タナカ コウ)
①文化情報(文化情報)
②助教③音韻論



堤 浩之
(ツツミ ヒロキ)
①理工(環境システム)
②教授③自然災害論



土井 貴之
(ドイ タカユキ)
①理工(機能分子・生命化)
②准教授③無機機能物質化学



遠藤 太佳嗣
(エンドウ タカツグ)
①理工(機能分子・生命化)
②准教授③物理化学II



佐々木 英一
(ササキ エイチ)
①理工(機械システム工)
②助教③力学I



RAHADIAN Yusuf
(ラハディアン ユスフ)
①理工学研究所
②助手



角田 伸人
(カダタ ノブヒロ)
①生命医科(医生命システム)
②助教③人体の構造と機能III



和久 剛
(オクヨウ ジュン)
①生命医科(医生命システム)
②助教③生物学



高倉 久志
(タカクラ ヒサシ)
①スポーツ健康科(スポーツ健康科)
②助教③基礎実習



高木 俊
(タカギ シュン)
①スポーツ健康科(スポーツ健康科)
②助教③ファーストイヤーセミナー



竹島 康博
(タケシマ ヤスヒロ)
①心理(心理)②助教
③心理学特論



河原 大輔
(カワハラ ダイスケ)
①グローバルコミュニケーション
(グローバルコミュニケーション)②助教
③British/American Culture and Society



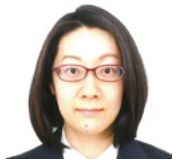
鈴木 伸子
(スズキ ノブコ)
①グローバルコミュニケーション
(グローバルコミュニケーション)②准教授
③日本語各論3



Esta Tina OTTMAN
(エスタティナ オットマン)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)②准教授
③コミュニケーションリッシュI



PEREZ RIOBO Andres
(ペレス リオボ アンドレス)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)②助教
③スペイン語インテンシブI



松谷 美のり
(マツタニ ミノリ)
①グローバルスタディーズ研究所
(グローバルスタディーズ)②助教
③アジアの移民とディアスポラ



Nam Hoai TRINH
(ナム ホアイトリン)
①グローバルスタディーズ研究所
(グローバルスタディーズ)②助手



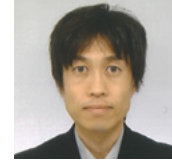
高橋 晋
(タカハシ シュム)
①脳科学研究所(発達加齢脳)
②教授③行動認知神経科学



佐久間 毅
(サクマ タカシ)
①司法研究科(法務)
②教授③民法講義I(総則)



内山 八郎
(ウチヤマ ハチロウ)
①全学共通教養教育センター
②准教授③Intensive Courses for TOEFL



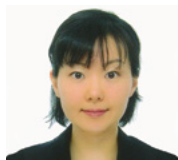
綱井 勇吾
(ツナイ ユウゴ)
①全学共通教養教育センター
②助教③Intensive Courses for TOEFL



児玉 祥一
(コダマ ショウイチ)
①免許資格課程センター
②准教授③教職概論



田中 暁次
(タナカ キョウジ)
①免許資格課程センター
②准教授③教育実習



石黒 安里
(イシグロ アンリ)
①研究開発推進機構及び心理学部
②特別任用助教
③ユダヤ学概論3



南 友二郎
(ミナミ ユウジロウ)
①研究開発推進機構及び社会学部
②特別任用助教
③社会福祉特講II



田中 弘美
(タナカ ヒロミ)
①研究開発推進機構及び社会学部
②特別任用助教
③ソーシャルワーク演習II



名和 愛利香
(ナワ エリカ)
①研究開発推進機構及び理工学部
②特別任用助教
③化学システム工学実験I



白井 真理子
(シライ マリコ)
①研究開発推進機構及び心理学部
②特別任用助教
③ファーストイヤーセミナー



彌田 智一
(ヨネダ トモカズ)
①ハリス理化学研究所
②教授

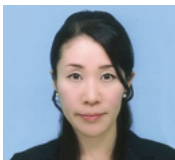


退職教員

2017年3月31日付で、次の先生方が退職されました。



郭 芳
(カク ホウ)
①社会(社会福祉)②助教
③ソーシャルワーク演習I



船本 多美子
(フナモト タミコ)
①商(商)②助教
③アカデミック・リテラシーI



竹井 義次
(タケイ ヨシジキ)
①理工(数理システム)
②教授③解析学II



河西 正博
(カワニシ マサヒロ)
①スポーツ健康科(スポーツ健康科)
②助教③障がい者スポーツ論



Daniel Eric MCKAY
(ダニエル エリック マッケイ)
①グローバル・スタディーズ研究科
(グローバル・スタディーズ)②准教授
③アメリカの社会と文学1,2



中瀬 浩一
(ナカセ コウイチ)
①免許資格課程センター
②准教授③特別支援と福祉の教育

- 文学部 井上 雅夫 教授
- 社会学部 森口 弘美 助教
DEBNAR Milos 助教
- 法学部 張 博一 助教
- 経済学部 郡 嘉 孝 教授
横山 照樹 教授
金 仙淑 助教
小川 沙有里 助教
佐藤 敦紘 助教
- 商学部 酒井 絢美 助教
高森 桃太郎 助教
中園 宏幸 助教
清水 玄彦 助教
長坂 健司 助教
- 政策学部 中川 清 教授
関根 千佳 教授
増田 知也 助教
平野 大昌 助教
橋本 圭多 助手
- 総合政策科学研究科 兪 相成 助手
- 文化情報学部 山村 則男 特別客員教授
- 理工学部 近藤 和生 教授
増田 富士雄 教授
水野 吉規 助教
八坂 能郎 助教
三木 啓司 助教
吉田 雅一 助教
岩崎 一成 助教
- 心理学部 渡邊 ひとみ 助教
- グローバル・コミュニケーション学部
中村 久男 教授
山森 良枝 教授
Benjamin SALAGNON 助教

- グローバル・スタディーズ研究科
鄭 袖鎮 助教
Iyas SalimABU-HAJIAR 助手
- アメリカ研究所 山口 航 助教
- 脳科学研究科 水谷 健一 准教授
- 司法研究科 徳田 和幸 教授
- ビジネス研究科 Timothy James CRAIG 特別客員教授
- 研究開発推進機構 川口 真也 准教授
江頭 良明 助教
山形 一行 助教
- 研究開発推進機構及び文化情報学部
松森 智彦 助教
宮武 慶之 助手
- 研究開発推進機構及び文学部
久野 譲太郎 助手
米本 雅一 助手
- 研究開発推進機構及び社会学部
岩月 真也 助手
- 研究開発推進機構及び法学部
河野 尚子 助手
- 研究開発推進機構及び政策学部
加藤 洋平 助手
- 全学共通教養教育センター
和泉 絵美 准教授
小島 直子 助教
丸田 祥一 助教



第18代同志社総長
八田 英二

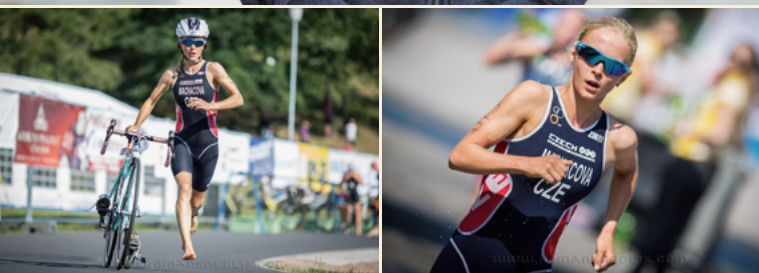
第18代同志社総長の決定について

八田英二経済学部教授が、2月25日開催の法人理事会において、第18代同志社総長に選定(任期:2017年4月1日から2021年3月31日までの4年間)されました。

学校法人同志社は幼稚園から大学まで14の学校を設置していますが、総長は同法人の教学の統括者です。

Messages from International Students

留学生紹介



マチャコヴァ・ヤナ さん

2016年9月～2017年7月

日本語・日本文化教育センターに在学(チェコ出身)

私はヤナです。チェコから来ました。イギリスのリーズ大学で日本語を勉強しています。私は日本の文化に興味があります。そして日本の料理が好きです。

2016年9月から2017年7月まで、同志社大学に1年間留学しています。京都はとてもきれいで歴史的な町だと思います。そして、同志社大学は有名な大学ですので、その大学で日本語を学びたいと思い、日本に来ました。日本語の授業には、10人のクラスメートがいます。クラスメートは、いろいろな国から来ています。例えば、フランスとアメリカとイギリスです。授業はとても楽しいですが、ときどき難しいときもあります。

Jmenuji se Jana Macháčová a studuji japonštinu na University of Leeds. Mám ráda japonskou kulturu a jídlo. Od září 2016 do července 2017 studuji na univerzitě Doshisha. Kyoto je krásné a historické město. Studovat na Doshisha univerzitě jsem si vybrala, protože je to velmi známá univerzita a kvůli podmínkám na triatlon. Na Doshisha university studii japonštinu, máme zde skvělé profesory. Jsme rozděleni do skupin podle úrovně jazyka. V mé skupině je 10 lidí, z Ameriky, Irska, Francie a Austrálie. Každý týden máme kanji test a test z gramatiky, což je náročné, ale rychle se zdokonalujeme.

V Kyotu mám možnost trénovat s týmem AS Kyoto, což je skvělé, protože tady mám skvělé podmínky pro trénink a taky mi to umožňuje denně si procvičovat japonštinu i mimo školní lavice. Dělán triatlon na velmi vysoké úrovni, závodím na evropských a světových závodech a mým snem je dostat se na olympiádu v Tokyu 2020.

Chtěla bych moc poděkovat Doshisha university, že nám umožňuje roční studium. Všechno je skvěle organizované a všichni jsou velmi hodní a obětaví. Po dokončení ročního studia na této univerzitě se v červenci vrátím do České republiky, kde budu do konce prázdnin a potom mě čekají ještě 2 roky studia na University of Leeds.

Jana Macháčová

それから、私はトライアスロンの選手です。京都でも、京都のチームと一緒に練習して、とても楽しいです。チームには日本の友達が、たくさんいます。私の夢は2020年の東京オリンピックにチェコ代表として、出場することです。

今年7月になったら国へ帰る予定です。それから、イギリスでもう2年間、大学で日本語を勉強するつもりです。同志社大学に心から「どうもありがとうございます」と言いたいです。日本に留学することができたことは、私にとって、とても素晴らしい経験です。

マチャコヴァ・ヤナ

INTERVIEW

同志社人 訪問

杉浦京子さん
〔1979年 文学部英文学科 卒業〕

小林 怜央さん
〔政策学部 2年次生〕

いぢりきてい
祇園 一力亭 女将

杉浦京子さんに聞く

創業 300 余年の歴史を暖簾に刻み、江戸時代には名字帯刀も許された老舗お茶屋、一力亭。
その女将として祇園ならではの伝統文化を守り継ぎ、おもてなしの心を極める杉浦京子さんに在学生在が取材しました。

今回の同志社人

杉浦京子さん

〔1979年 文学部英文学科 卒業〕

すぎうら・きょうこ 京都市生まれ。実家は老舗の茶舗。同志社中学校・高等学校から同志社大学に進学。1981年に一力亭13代目主人に嫁ぎ、女将となる。

今回のインタビュアー

小林 怜央さん

〔政策学部 2年次生〕

こばやし・れお 大阪府出身。社会の様々な問題に対応するために、社会、政治、経済、法律などの具体的な知識や理論、技術を学びたいと考えて政策学部に入學。現在、文化系公認団体「京都研究会」の会長を務めている。月に2回、京都の名高い神社や仏閣を探訪し、参拝の礼儀作法などの知識も得ながら古都の歴史や文化への造詣を深めている。

『仮名手本忠臣蔵』の七段目に 「祇園一力茶屋」として登場

小林 お茶屋、一力亭の歴史について教えていただけますか。

杉浦 江戸時代の初期に、八坂神社の門前に立ち並んでいた茶屋に「茶立(点)女、茶汲女」と称された女性が現れました。これが芸妓、舞妓の源流であり、お茶屋の起源と伝え聞いています。一力亭の往時の屋号は万屋よろずでした。初代は元禄12(1699)年に他界した万屋治郎右衛門で、代々治郎右衛門を襲名し、当代で14代目となります。元禄時代に起こった赤穂浪士の仇討ちを題材にした『仮名手

本忠臣蔵』の七段目に「祇園一力茶屋」として登場して以来、「忠臣蔵といえど一力茶屋」となり、広く知られるようになりました。万屋の「万」の字を「一」と「力」に分けて作中の屋号としたのです。その後、元治2(1865)年に祇園町一帯が猛火に包まれ、万屋も焼失しました。再建後も玄関は四条通に面していたのですが、大正時代の法律改正で花見小路側に移設しました。現在も四条通側にあるお座敷を「表座敷」と呼んでいます。9代目治郎右衛門は一力亭の中興の祖です。東京遷都で衰退していた京都を復興するために、明治5(1872)年に開催された第1回京都博覧会の附博



日々お座敷の裏方に徹して、 お客様への深く細やかな心遣いを

覧として榎村正直京都府大参事、祇園新地の舞の師匠であった三世井上八千代師と「都をどり」を創案しました。これを契機に祇園は井上流が担うことになり、他流を入れない、他に出ないという約束は、今日も変わることなく受け継がれています。また、祇園甲部に組合を創設し、芸妓さんや舞妓さんを近代女性の仕事として確立させました。明治初期に発足した下京第33番組小学校(後の京都市立弥栄中学校)の初代校長も務めています。屋号を現在の一力亭に変えた



のも9代目であり、この時から杉浦姓を名乗るようになりました。

小林 嫁がれた時の感慨、女将としての心構えを聞かせてください。

杉浦 京都で生まれ育ちましたが、お茶屋のことは何も知りませんでした。私の実家は茶舗を営んでおり、祇園町にもお得意様がたくさんあり、小学生の頃から年末などの忙しい時には、自転車で配達の手伝いもしていました。その時の目印が一力亭でした。「一力さんから何筋目…」といった具合です。まさか将来嫁ぐことになるとは夢にも思いませんでした。昭和56(1981)年の初秋に結婚し、2カ月後に初めて若女将としてお客様の前に出ました。表千家宗匠のご襲名の祝賀晩餐会のお席です。当初は戸惑いの連続でしたが、覚悟を決めて飛び込んだ世界であり、「とにかく一生懸命にやれば、それなりの人生が歩めるのでは…」と日々頑張りました。先代から教えられた「縁の下の力持ちであれ」という女将としての心得を守り続けてきました。お茶屋の女将の役割はお座敷にお迎えしたお客様と芸妓さん、舞妓さんの間を取

り持つ裏方に徹することであり、自身が前に出ることはありません。「どうすればお客様に喜んでいただけるのか、心地良く過ごしていただけるのか…」を考え、気配りするのが仕事です。これは茶道の心にも通底するものだと感じています。「おもてなし」とは表に出さない深く細やかな心遣いです。昨今、この言葉が声高に語られていますが、はき違えてはいけません。「本当に楽しかった、良い時間を過ごせた…」と微笑まれるお客様をお見送りする時に、女将としての何よりのやりがいを感じています。

芸の道に終わりはなく しきたりが祇園の心を守る

小林 芸妓さんや舞妓さんは日々稽古に励んでおられるのですか。

杉浦 祇園のお茶屋はお客様に置屋さんから招いた芸妓さんや舞妓さんの京舞を愛でていただく場所です。際立つ芸をご披露してこそ「芸妓・舞妓」なのです。それが立ち居振る舞いなどの何気ない所作にも表れ、優美さを香り立たせるのです。京舞の井上流は200年以上の伝統を持ち、能などの特色も振りに加えた格調の高い舞です。舞妓さんは見習いの時代から日々稽古に励み、その舞を磨くわけですが、芸の道に終わりはありません。舞妓を経て芸妓になっても修業は続きます。昔はお茶屋さんや置屋さんの娘さんが多かったのですが、今は全国各地から置屋さんの門を叩きます。その動機も「舞妓さんに憧れて…」、「舞踊が好きだから…」など様々です。最初は本当に何もわからない10代半ばの子たちが厳しいお稽古を重ねて上達していく姿をお客様にご覧いただき、末永く応援していただければと願っています。それが舞妓の励みになり、修業の支えにもなるのです。

小林 祇園が守り継ぐ伝統行事について聞かせてください。

杉浦 花街は折々のご挨拶や礼儀を重んじる世界であり、行事は季節のけじめにもなっています。しきたり

や約束事を大切に受け継ぐことが、祇園の伝統を守ることになるのです。私たちにとっては堅苦しいものではなく、日々の暮らしに根付いたものです。12月13日の「事始め」で祇園の一年が始まり、「お正月」、祇園女紅場学園の「始業式」、「初寄り」、「節分・お化け」、「大石忌」、「都をどり」、「温習会」と、続いていきます。一力亭では代々の当主が大石内蔵助の遺徳を偲び、命日の3月20日(陽暦)に「大石忌」を催してきました。四十七士の方々の供養をさせていただく会としてご最^{ひいき}願を賜わっているお客様やお世話になっている皆様をお招きしています。当日は井上八千代師が地唄舞「深き心」を披露され、芸妓3人が地唄舞「宿の栄」を舞います。「討ち入り蕎麦」にちなみ手打ち蕎麦とお茶席もお支度しています。

小林 祇園の伝統文化の継承についてはどのようにお考えですか。

杉浦 外国人の方々を含めて観光客で日々賑わっていますが、これが本来の祇園なのかと懸念しています。かつてはお茶屋さんが何百軒もあり、芸妓さんや舞妓さんも千人以上おりましたが、今は大きく減少しています。町の誰もが心をつなげて伝統文化を支えている祇園のような世界は本当に稀少だと思っています。時代は大きく変化していますが、その真の姿を守り抜き、次の世に継承できればと願っています。

母校での経験も女将としての仕事につながっている

小林 母校である同志社での学びについて聞かせてください。

杉浦 英文学科でしたが、心理学にも関心があり、その観点からの言語学も探究しました。石黒昭博教授のゼミでは「言語の構造」、「世界の言葉」、「言語とコミュニケーション」などを通じて人間にとって言語とは何なのかという普遍的な問題も考察しました。在学時には教員免許を取得して教師になりたいと考えていました。その思いはお茶屋の女将として芸妓さんや舞妓さんと接する中で役立つ

ていると感じています。日々、学校の先生のような気持ちで若い彼女たちを見守っており、私のお客様への心遣い、仕事に対する姿勢が伝わり、祇園のために、さらに励んでくれればと願っています。課外活動では中学生の頃から打ち込んでいたバスケットボールへの熱い思いを結実させるために、同好会「レオパード」の女子チームを結成しました。本当に楽しく、充実した時を過ごすことができました。数年前に同窓会を開催するという連絡があり、多忙でしたが駆けつけました。また、当家は神道、実家は禅宗ですが、私はキリスト教系の幼稚園に通い、小学生の頃も日曜学校に行き、中学から大学まで同志社で青春を過ごしましたので、聖書にも親しんできました。そのため、座右の銘も「No cross no crown」。直訳は「十字架なくば、冠なし」ですが、意識は「苦難なくして栄光なし」です。

小林 最後に京都の春を彩る「都をどり」をご案内いただけますか。

杉浦 「都をどり」は広く一般の方々に芸妓さんや舞妓さんの舞や芸をご高覧いただける格好の機会であり、一人でも多くの皆様にご鑑賞いただければと願っています。今年の公演は、これまでの開催会場であった祇園甲部歌舞練場が耐震工事に着手するために、会場を京都造形芸術大学「京都芸術劇場 春秋座」に移し、『都をどり



in 春秋座』と題して開催させていただきます。公演期間は4月1日(土)から23日(日)までの21日間(10日・17日は休演)です。皆様のお越しを心からお待ち申し上げております。



インタビューー
小林 怜央 さん
【政策学部 2年次生】

インタビューを終えて

祇園を象徴する高雅な世界に
深い感銘を覚え
そのご対応や心遣いにも感動しました

由緒ある「一力亭」の暖簾をくぐると、祇園を代表する高雅なお茶屋の世界が広がっており、深い感銘を覚えました。「現代」と「古都」の共存が京都の興行きのある魅力を生み出していることを実感し、このような取材の機会を与えていただいたことに感謝しています。女将の杉浦様のオーラに圧倒されて非常に緊張しましたが、大学生である私にも気さくに接していただき、感動しました。「何事も一生懸命にやり切ることが大切」という言葉が今も心に残っています。新島襄先生の好んだ「寒梅」の掛軸、同志社のスクールカラーを思わせる淡い紫のお召し物の彩りにも細やかな心遣いを感じました。本当に大切な学びを得た、忘れられない一日になりました。

My Job, My Life

なかの れいか
中野 侖香さん

[2015年 グローバル・コミュニケーション学部卒業]

シャープ株式会社
IoT通信事業本部
パーソナル通信事業部
商品企画部

現在の目標は自身が主体となって企画した新商品の発信 将来的には世界に向けたブランド戦略を担いたい

One day on the job



🕒 08:30
出社後、
まずはメールチェック。
担当商品の開発状況や
1日の予定を確認します



🕒 09:30
毎朝、チーム内
でお互いのタスクの
進捗を共有します



🕒 12:00
先輩と食堂でランチ。
日常や仕事のことなど
いろんな話をして
リラックスします



🕒 13:30
商品カタログの確認をします。
伝わりやすい文章か、
記載内容は合っているか
など細部までチェックします



🕒 16:00
出来上がったサンプルを
基に、サイズ、色、質感
などを確認します。
満足のいくまで何度も
関係者と議論します

小学生の頃から英語に興味があり、洋画や洋楽も大好きでした。グローバル・コミュニケーション学部を選んだのは、語学だけでなく、幅広い視野に立って世界を学べると判断したからです。新設の学部という点にも魅力を感じました。就職活動では、語学力を生かして世界と関わる仕事がしたかったので、グローバルに事業を展開する日本のメーカーに絞り込みました。理由はカナダのウィニペグ大学に留学した時、日本が得意としてきた製品分野が海外のメーカーに席巻されているのを目の当たりにし、ジャパンプランドの素晴らしさを再評価してもらいたいと思ったからです。シャープは私が生まれ育った関西を拠点に世界各国に事業展開している企業であり、その一員になった時は夢に近づいていると感じました。

現在は商品企画部でスマートフォンなどの商品開発を行っています。文系出身なので、配属当初はかなり戸惑いましたが、今では大きなやりがいを感じています。初めて任された仕事は人工知能(AI)「エモパー」というアプリケーションの中で、クリスマスにちなんで待ち受け画面に雪を降らせる企画でした。毎日、技術スタッフに疑問点

を質問し、試行錯誤を繰り返して、完成させることができました。お客様から「すごく可愛い」、「本当に綺麗」などと評価していただき、心から感動しました。昨年の11月からスマートフォン本体の商品企画に携わっています。通信事業者の戦略を的確に捉え、検討を重ね、そこに当社の新たな提案を組み込み、ユーザーの高度で多彩なニーズに即応する新商品を生み出すのが私たちの仕事です。

入社直後の研修では家電量販店で実際に店頭に立ったのですが、そこで接客を通じてお客様の視点で発想することの大切さを学びました。また、アプリケーション開発時の「上司の判断に従うだけでは、後々すごく後悔すると思うので、担当しているあなたの意見を言うことが大事だよ」という先輩の助言も印象に残っています。

グローバル・コミュニケーション学部ではプレゼンテーション力を徹底的に鍛えられましたが、これが今の仕事に非常に役立っています。現在の目標は自身が主体となって企画した新商品を世に出すことです。将来的にはブランド戦略の一翼を担えればと願っています。

私と「仕事」 第73回

学生時代からの夢を追い続け、多彩な分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に挑む熱い思い、今後の目標などをインタビュー。その姿が学生の皆さんの将来のキャリア・プランに役立てば幸いです。

なかもと かずひで
中本 和秀さん
[2007年 商学部卒業]
近畿車輛株式会社
資材部主任



仕事で重視しているのは「品質・納期・価格」 海外からの大物部品が無事納品された時の達成感は格別

近畿車輛は約1世紀にわたって鉄道車両の製造に取り組んできた企業です。その優れた技術と確かな品質は、日本国内はもとより北米、中近東、アジア各国でも高い評価を得ており、国際ブルネル賞やグッドデザイン賞など数多くの賞を受賞しています。私は幼少の頃から交通、観光、地理に関心があり、就職活動では特に好きだった交通分野に的を絞って採用試験に挑みました。入社が決まった時は、公共的な鉄道を支える車両製造の仕事を通じて「人と人の出会い」に貢献できることに深い感慨を覚えました。

最初の配属先であった経営管理室では経理・総務の業務にも携わり、4年後に現在の資材部に異動しました。当部署が主に担うのは社外からの材料・部品の調達です。それらは鉄鋼などの素材、座席や荷棚、吊り革などの内装部品、電気品や連結器などの機器の3分野に分けられます。現在、私は主に機器を担当するグループに所属しています。転属した時に上司から厳命され、日々注視しているのが「品質・納期・価格」です。外部との交渉や契約において最重視しなければならない要件です。また、輸入品の調達業務では語学

力も問われます。例えば、海外のメーカーとの商談は基本的に英語です。書類もカタログも英文を読まなければならない。一番の難関は英文契約です。これは特に神経をすり減らします。幸いにも同志社大学大学院ビジネス研究科を修了された、英語に堪能な先輩がおられたので、教えを受けながら懸命に努力し、何とか対応できるようになりました。資材部で6年目を迎えるようとしています。細やかな気配り、快活な対応、適切で迅速な情報や要望の伝達などの大切さを身をもって学んでいます。契約した海外製の大型部品が無事納品された時の安堵感と達成感は格別です。これからも、さらに大きな案件、新たな仕事に挑めればと願っています。

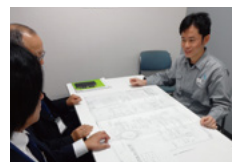
中学校から大学まで同志社で学び、新島襄先生の建学の精神に基づく気高く揺るぎない校風が大好きでした。2年次生の春からキャンパスツアーの学生ガイドをしたのも、多くの人々に同志社を知ってほしかったからです。在学生の皆さんに贈りたいのは、「求めなさい、そうすれば与えられる…」という、同志社の10年間で私の心に最も深く残った聖書の言葉です。

One day on the job



🕒 09:00

朝のメールチェック
(欧州からは夜間にメールが入ることが多い)



🕒 11:00

購買先と製品納入のスケジュールについて細かく打ち合わせる



🕒 13:00

製造部門との会議に出席。大型案件の部品納入時期についての要望を聞き、資材部の各担当者に伝達



🕒 17:00

納品した製品に関して工場からクレームがあり、現場に急行。状況を把握して購買先とともに問題解決にあたる



Off Time

オフタイムは英会話のレッスンを楽しみながら続けている。年間数回は旅行もする。行先はその時の気分次第…

ANNOUNCEMENT

アナウンスメント 2017 April



応援に行こう! 体育会試合日程

【アーチェリー部】

- 4月2日(日)
男子第57回・女子第52回関西学生アーチェリーリーグ戦第1戦 各連盟校
- 4月9日(日)
男子第57回・女子第52回関西学生アーチェリーリーグ戦第2戦 各連盟校
- 4月16日(日)
男子第57回・女子第52回関西学生アーチェリーリーグ戦第3戦 各連盟校
- 4月23日(日)
男子第57回・女子第52回関西学生アーチェリーリーグ戦第4戦 各連盟校
- 4月30日(日)
男子第57回・女子第52回関西学生アーチェリーリーグ戦第5戦 各連盟校

【馬術部】

- 5月3日(水・祝)～5日(金・祝) 第52回全関西学生馬術大会
三木ホースランドパーク(兵庫県)
- 5月4日(木・祝)・5日(金・祝) 第48回関西学生新人馬術大会
三木ホースランドパーク(兵庫県)

【ボート部】

- 5月4日(木・祝)～7日(日) 第70回記念朝日レガッタ
滋賀県立琵琶湖漕艇場(滋賀県)
- 5月26日(金)～28日(日) 第39回全日本軽量級選手権大会
戸田ボートコース(埼玉県)

【柔道部】

- 4月15日(土) 平成29年度国体一次選考
京都市武道センター(京都府)
- 5月3日(水・祝) 第68回京都学生柔道大会
京都産業大学第二体育館(京都府)
- 5月8日(月) 平成29年度全日本ジュニア体重別選手権京都府予選
京都市武道センター(京都府)
- 5月15日(月) 第67回関西学生柔道優勝大会
ベイコム総合体育館(兵庫県)
- 5月27日(土) 平成29年度国体二次選考会
京都市武道センター(旧武徳殿)(京都府)

【空手道部】

- 4月29日(土・祝) 第51回関西学生空手道個人選手権大会
兵庫県立総合体育館(兵庫県)(予定)
- 5月28日(日) 第55回西日本大学空手道選手権大会
近畿大学東大阪キャンパス(大阪府)(予定)

【弓道部】

- 5月6日(土) 第57回京都学生弓道選手権大会
京都市武道センター(京都府)
- 5月27日(土)・28日(日) 第62回関西学生弓道選手権大会
グリーンアリーナ神戸(兵庫県)

【ラグビー部】

- 4月1日(土)・2日(日) 2017関西セブンス大会
鶴見緑地球技場(大阪府)
- 5月4日(木・祝) 第100回同慶ラグビー定期戦
秩父宮ラグビー場(東京都) 対戦相手 慶應義塾大学
- 5月21日(日) 2017東西大学対抗戦
パロマ瑞穂ラグビー場(愛知県) 対戦相手 早稲田大学

【レスリング部】

- 4月22日(土)・23日(日) 2017年度JOCジュニアオリンピックカップ
横浜文化体育館(神奈川県)
- 5月20日(土)・21日(日) 平成29年度西日本学生春季リーグ戦
堺市金岡公園体育館(大阪府)

【陸上競技部】

- 4月9日(日)・10日(月) 第81回京都学生陸上競技対校選手権大会
京都市西京極総合運動公園陸上競技場(京都府) 10:00～

【水泳部】

- 4月13日(木)～16日(日) 第93回日本選手権水泳競技大会
日本ガイシアリーナ(愛知県)
- 5月19日(金)～21日(日) ジャパンオープン2017
東京辰巳国際水泳場(東京都)
- 5月27日(土)・28日(日)
第5回関西学生チャンピオンシップ水泳競技大会

【スピードスケート部】

- 4月1日(土)
第22回神戸スプリントショートトラックスピードスケート選手権大会
神戸市立ポートアイランドスポーツセンター(兵庫県) 17:00～

【射撃部】

- 5月5日(金・祝)～7日(日)
第64回春季全関西学生ライフル射撃選手権大会
能勢町国体記念スポーツセンター(大阪府)
- 5月5日(金・祝)～7日(日)
第23回春季全関西女子学生ライフル射撃選手権大会
能勢町国体記念スポーツセンター(大阪府)
- 5月5日(金・祝)～7日(日)
第12回春季全関西学生ピストル射撃競技大会
能勢町国体記念スポーツセンター(大阪府)

【体操競技部】

- 4月21日(金)～23日(日)
第59回関西学生体操選手権大会・体操競技の部
岡山総合グラウンド ジップアリーナ岡山(岡山県)
- 5月12日(金)～14日(日)
第67回西日本学生体操選手権大会・体操競技の部
和歌山県立総合体育館(和歌山県)
- 5月19日(金)～21日(日)
第67回西日本学生体操選手権大会・新体操の部
岡山総合グラウンド ジップアリーナ岡山(岡山県)

【ヨット部】

- 5月13日(土)・14日(日) 京滋四大学ヨット定期戦
琵琶湖・柳が崎ヨットハーバー(滋賀県)
- 5月20日(土)・21日(日) 関関同立ヨット定期戦
新西宮ヨットハーバー(兵庫県)
- 5月28日(日) 同志社・立教ヨット定期戦
琵琶湖・同志社艇庫(滋賀県)

【トリアスロン部】

- 5月21日(日) 日本学生スプリングトリアスロン選手権渡良瀬大会
群馬県 8:00～

ボランティア支援室学生スタッフARCO募集!



ボランティア支援室学生スタッフARCOは、同志社大学の学生のボランティア活動の活性化を目的として、ボランティア情報の発信・紹介やボランティアイベントの企画運営などの活動を行っています(活動は今出川校地)。「ボランティア、なんとなく気になる・・・」「大学生になったからにはボランティアに組みたい!」「サークルではなく、大学のスタッフとして活動したい!」という方は、まずは募集説明会へお越しください!詳しくは、ボランティア支援室HP(<http://volunteer.doshisha.ac.jp>)をご確認ください。

【お問い合わせ先】

ボランティア支援室(今出川)
TEL:075-251-3236 Email:ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集!



同じキャンパスで学ぶ障がい学生(Challenged)の立場に立って、責任をもって支援活動に取り組んでくださる方を募集しています。初めてでもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録して、パソコン・通訳・ノートテイク・映像字幕付け・代筆・車椅子介助などの活動にご協力ください。活動時間にあわせて、謝礼をお支払いいたします(900円/時間)。その他行事・イベントも充実しています。詳しくは障がい学生支援室HP(<http://challenged.doshisha.ac.jp/>)で随時お知らせしています。

【お申し込み・お問い合わせ先】

障がい学生支援室(今出川) TEL:075-251-3273 E-mail:ji-care@mail.doshisha.ac.jp
障がい学生支援室(京田辺) TEL:0774-65-7411 E-mail:jt-care@mail.doshisha.ac.jp

♪観に行こう聴きに行こう♪ — 学生団体 4月の活動予定 —



【学内】

- 4月8日(土) 交響楽団 「同志社交響楽団 新入生歓迎コンサート」
今出川 寒梅館ハーディーホール 15:00~17:00(14:00 開場) 無料
 - 4月11日(火) マジック&ジャグリングサークルHocus - Pocus
「Hocus - Pocus新歓ステージ」
今出川 寒梅館ハーディーホール 17:00~17:30(16:30 開場) 無料
 - 4月15日(土) 能楽部狂言会 「卯月狂言会」
今出川 寒梅館ハーディーホール 13:00~17:00(12:30 開場) 無料
- ### 【学外】
- 4月2日(日) Meahula Nohealani 「阪神百貨店 アロハウィーク」
阪神百貨店梅田 11:10~11:20 無料

クローバーシアター



開講期間中、寒梅館クローバーホールでは、映画・音楽・アートなど先鋭的なプログラムを開催します。

- 【会場】寒梅館クローバーホール(地階) 【料金】本学学生・教職員はすべて無料(4/19を除く)
- 4月19日(水)
《21世紀キャバレー [Le Monde de Seiji Semenov—聖児セシヨノフの世界—]》
①開場14:30/開演15:00 ②開場18:30/開演19:00 料金:一般3,900円、学生2,500円
 - 4月25日(火) 《パリが愛した写真家 ロベール・ドアノー<永遠の3秒>》
上映とクレモンティーヌ・ドルティル監督(ドアノーの孫娘)によるアフタートークを予定
開場18:30/開演19:00 料金:一般1,800円、学生1,000円、シニア1,100円、会員(京都シネマ、クラブ・フランス)800円
- 【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。5月以降も毎週火曜日、《日・EUフレンドシップウィーク》などの催しを予定しています。詳細はお問い合わせください。

第35回函館キャンプ参加者募集

創立者・新島襄が1864年に国禁を犯して脱国した地、北海道函館市を訪れます。新島襄の生き方に触れ、人と人との触れ合いの中で自分自身を見つめ直そうという趣旨で行われます。学生が主体となって触れ合いづくり上げるプログラムです。

- 【実施期間】8月下旬 ※出発前に3回程度のミーティングを行います。
【お申し込み】4月下旬~5月下旬 【参加費用】29,000円(予定)
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
※詳細は後日HPなどでお知らせします。

WOT(ワット)="What's On Thursdays!"



開講期間中、寒梅館ハーディーホールにて、映画上映やコンサートなど多彩なイベントを開催します。

- 【会場】寒梅館ハーディーホール 【料金】本学学生・教職員はすべて無料
- 4月20日(木)
『キャロル』(2015年/アメリカ/118分/監督:トッド・ヘインズ)
11:00 / 15:00 / 18:30 料金:一般1,300円、
Hardience会員・学生・前売1,100円 共催:京都映画センター
 - 4月28日(金) WOT / アssenブリー・アワー共同企画
『篤監督一高校野球を変えた男の真実—』(2016年/日本/126分/監督:篤哲一朗)
開場16:30 / 開演17:00
◎篤哲一朗監督によるアフタートークあり 入場無料
- 【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。5月以降も毎週木曜日、《日・EUフレンドシップウィーク》などの催しを予定しています。詳細はお問い合わせください。



ローム記念館プロジェクトメンバー募集!

同志社ローム記念館では、学生が主体となって企画・運営する課外プログラム「同志社ローム記念館プロジェクト」を展開しており、様々なテーマのプロジェクトが活動しています。活動期間は1年間で、現在、本年度採択された新規プロジェクトに参加するメンバーを募集しています。同志社大学・同志社女子大学の学生を中心に、学部・学年の枠を越えた多様なメンバーが集まるプロジェクトで、新しいことにチャレンジしてみませんか?プロジェクトの一覧やメンバー申込票のダウンロードは、ローム記念館webサイト(<http://rohmdoshisha.ac.jp>)から。メンバー募集に関するイベントにも是非ご参加ください。

メンバー募集プログラム

- 4月2日(日)~6日(木) 11:00~16:30
RM グランドフロアオープンテラス
「見て知る“プロジェクト”とは」(プロジェクト紹介)
 - 4月17日(月)16:30~19:00 RM 1階 PCエリア
「プロジェクト交流会」
 - 4月10日(月)~14日(金)、4月18日(火)~21日(金)16:45~18:45
RM 2・3階 プロジェクトルーム
「聞いて分かる“プロジェクト”のすべて」(プロジェクト個別説明会)
- 各イベントの詳細はwebサイトや広報誌「ippo」をご覧ください。
【お問い合わせ先】
京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)
TEL:0774-65-7800 E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

熊本キャンプ参加者募集

同志社開校の翌年、熊本洋学校の卒業生や在校生約40人が同志社に入学しました。彼らはのちに日本のキリスト教史上「熊本バンド」と呼ばれる秀才ぞろいで、「同志社のもうひとつの源流」を作ったと言えるほどの個人的な存在です。このキャンプでは、彼らの生き様や彼らに影響を与えた人々について、事前学習や現地での研修を行うことによって学び、同志社を見つめ、自らを省みる時間をもつことを目標とします。

また今回は、2016年に発生した熊本地震を憶え、現地を訪れ、熊本と同志社の関わりを知るなかで、ともに考える機会となることを目指します。

- 【実施期間】9月6日(水)~8日(金)の2泊3日
【お申し込み】5月中旬~6月上旬(予定)
【募集人数】20人程度 【参加費用】20,000円程度
【説明会】
今出川 5月9日(火)12:30~キリスト教文化センター集会所(クラーク記念館1階)
京田辺 5月10日(水)12:30~キリスト教文化センター・セミナー室(同志社京田辺会堂光館)
【お申し込み・お問い合わせ先】
今出川校地 キリスト教文化センター TEL:075-251-3320
京田辺校地 キリスト教文化センター TEL:0774-65-7370

東京での就職活動を予定している学生の皆さんへ

東京で就職活動をされる方は、東京サテライト・キャンパスをご利用いただけます。東京サテライト・キャンパスは、東京駅から徒歩6分、銀座線「京橋」駅は目の前という大変便利な場所にあります。証明書類・学割の発行、PC利用、荷物の一時預かりや、更衣室利用、畳エリアでの仮眠・休憩なども可能です。サービス内容や開室時間については、<http://doshisha-tokyo-hub.jp/> をご覧ください。

- 【住所】〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目7番19号 京橋イーストビル3階
【お問い合わせ先】TEL:03-6228-7260 E-mail:ji-toky1@mail.doshisha.ac.jp



世界の強豪選手に徹底した攻めの空手で挑み 「WKFベトナムオープン 2016」で優勝

全日本空手道連盟(JKF)のナショナルチーム代表(女子組手・-61kg級)として挑んだ「WKFベトナムオープン2016」は、沖田理奈さんにとって4年ぶりの国際大会であった。世界各国の強豪選手が多数参戦する中で、初戦5-0、準々決勝8-0と圧倒的な強さで勝ち進み、準決勝も6-3で下し、決勝も2-0で競り勝って栄冠を手にした。「もちろん緊張感はありましたが、事前に対戦相手のコンディションを見極め、試合の駆け引きを楽しみながら自分らしい試合運びができました。心掛けたのは自分の組手に精神を集中し、攻めの姿勢を貫くこと。外国人選手と闘う時は、特に重要なポイントです。間合いにも注意しました。彼らは蹴りが得意だからです」。勝利した瞬間に感じたことは大きな達成感と深い安堵感だった。その後、監督やコーチ、熱烈に応援していただいた方々の歓喜の声を聞いて優勝の実感が込み上げてきたという。

6歳の時、3歳年上の兄の後を追って地元の道場に通い始める。それが空手道との出会いだった。勝気で素質にも恵まれた沖田さんは、黙々と鍛錬を重ね、中学1年生の時に「はまなす杯・第4回全国中学生空手道選抜大会・女子1年組手の部」で優勝し、翌年、北九州市民スポーツ奨励賞も受賞。マスコミでも脚光を浴びる。中学2年生で「AKFアジアジュニア&カデット、21アンダー空手道選手権大会・カデット女子-54kg級」にも挑戦。3位決定戦で敗退したが、初の国際大会で痛感した外国人選手の発想の違いは貴重な経験となった。相手は空手道を純粋な格闘技と捉えており、日本人選手とは根本的に異なっていたのである。続けて、中学3年生時には「第19回全国中学生空手道選手権大会・女子個人組手の部」で準優勝し、高校1年生の時に

出場した「EKF第1回東アジアジュニア&カデット空手道選手権大会・ジュニア女子-59kg級」で再び頂点に立った。「空手道の根幹を成す『道』の精神を培ってくれたのは、かつて水泳選手として活躍したアスリートの母親です。試合に負けて大泣きしている小学生の私を激しく叱り、勝敗以上に大切なものがあることを教えてくれました。それからは結果に左右されず、相手を敬うようになりました。マスコミで話題になった時に、『天狗になるな!』と厳しく諭してくれたのも母親です。空手道を通じて多くの学びを得ることができ、目指すべき道を見いだすことができました」。優れた先輩たちも沖田さんの心の支えになっている。彼女の座右の銘「精神一到何事か成らざらん」は、中学3年生の時に尊敬する先輩から授かった。高校時代にはナショナルチームで敬愛する東海志保選手(スポーツ健康科学部4年次生)に出会い、同志社大学への進学を決める。東海選手は現在、本学の体育会空手道部女子主将であり、JKFナショナルチームの大先輩でもある。

2020年東京オリンピックの空手の競技会場は武道の聖地「日本武道館」に決定。この最高の競技会場を目指して沖田さんは心技を鍛え続けている。「監督やコーチから指摘されている課題は、下半身の強化、瞬発力のアップ、突きの正確さです。道場ではこの三つのポイントに意識を集中した練習を繰り返し、キャンパス内外の坂道を利用してダッシュやランニングにも取り組み、食事のバランスにも気を配っています」。2020年東京オリンピックの前哨戦となる「第11回FISU世界学生空手道選手権大会」は2018年に神戸市で開催される。この大会を勝ち抜けば、その向こうに栄光の日本武道館が見えてくる。



沖田 理奈さん

[スポーツ健康科学部 2年次生]